

第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会

テーマ

生き生きと、活き活きと、粹々と
—2020 年、2025 年への展望—

日 程

2016 年 10 月 29 日 (土)~30 日 (日)

場 所

パシフィコ横浜 会議センター

主 催

公益社団法人 日本理学療法士協会
関東甲信越ブロック協議会

担 当

公益社団法人 神奈川県理学療法士会

後 援

神奈川県

横浜市

川崎市

相模原市

公益社団法人 神奈川県医師会

公益社団法人 神奈川県病院協会

一般社団法人 神奈川県歯科医師会

公益社団法人 神奈川県看護協会

一般社団法人 神奈川県作業療法士会

神奈川県言語聴覚士会

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

公益社団法人 神奈川県薬剤師会

公益社団法人 神奈川県栄養士会

神奈川県医療社会事業協会

公益社団法人 神奈川県放射線技師会

一般社団法人 神奈川県臨床検査技師会

一般社団法人 神奈川県臨床工学技士会

特定非営利活動法人 神奈川県歯科衛生士会

公益社団法人 神奈川県社会福祉士会

特定非営利活動法人 神奈川県介護支援専門員協会

公益社団法人 神奈川県介護福祉士会

神奈川県医療専門職連合会

神奈川新聞社

株式会社テレビ神奈川

横浜エフエム放送株式会社

株式会社エフエム戸塚

神奈川リハビリテーション研究会

第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会

目 次

学会開催にあたり	3
交通案内図	4
周辺案内図	5
会場案内図	6
参加者へのお知らせとお願い	7
新人教育プログラムおよび専門・認定理学療法士に関わるポイントについて	10
座長・演者へのお知らせとお願い	10
併催事業案内	12
第 34 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 各賞受賞者紹介	13
第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 各賞表彰について	13
学会日程	14
発表演題 大会 1 日目 10 月 29 日 (土)	19
発表演題 大会 2 日目 10 月 30 日 (日)	33
基調講演	50
理学療法士が取り組むべきこと—地域包括ケア構築に向けて—	
教育講演 1	52
「患者情報を収集して読み解こう」	
脳画像所見にもとづいて症状と予後を推測して理学療法を計画する	
教育講演 2	52
「患者情報を収集して読み解こう」	
呼吸循環障害とその管理状況を把握して理学療法を計画する	
シンポジウム	58
理学療法士によるスポーツ現場への関わり方	
—リオ五輪での活動と 2020 東京オリパラに向けて—	
一般公開講座	64
自分の可能性を求めて—2020 年に向けて—	
学会組織図	66
協賛御芳名	67

学会開催にあたり



第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 学会長 林 克郎

理学療法士、そして理学療法士がサービスを提供する対象者が、さらに社会全体が、2020年・2025年の節目に是非このような姿であってほしいとの願いから、テーマを「生き生きと、活き活きと、粋々と」とし、サブテーマを「—2020年、2025年への展望—」としました。

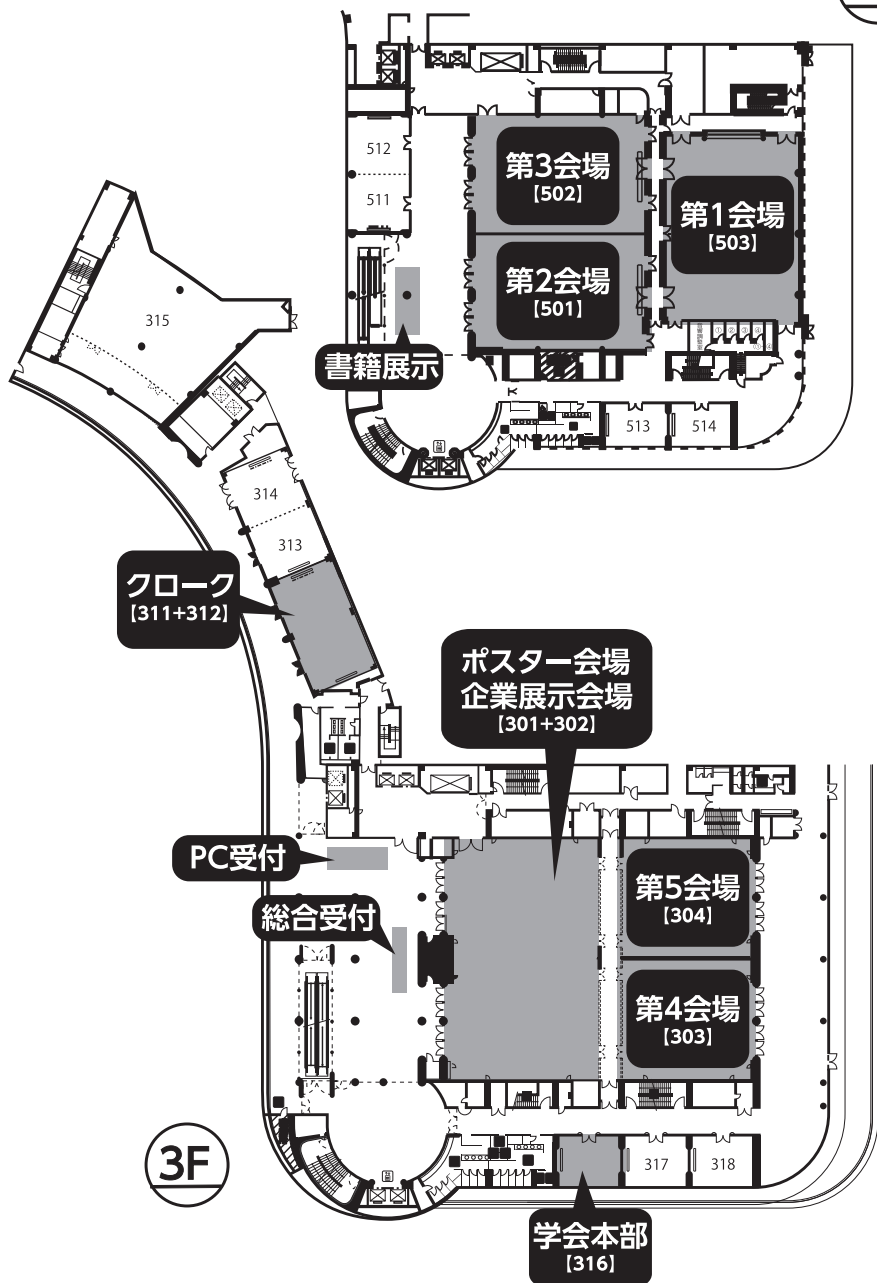
本学会開催の2016年はリオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピックの開催年であり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けフラッグが引き継がれた後の開催日程となっております。実際にオリンピックに携わった理学療法士を招へいし、2020年に我々理学療法士とアスリートが共に「生き生きと、活き活きと、粋々と」活躍するために、関東甲信越ブロックに所属する理学療法士が何をなすべきなのか、その準備に向けたきっかけ作りの場の一つとなることを期待しています。さらに広く一般市民の方々と共に、障がい者スポーツへの関心を共有できるよう、一般公開講座としてパラリンピック・アスリートの成田 真由美氏（競泳日本代表）の講演を企画しました。

次に2025年の後期高齢者の増加に伴う諸問題の解決方法の一つとして、理学療法士が「生き生きと、活き活きと、粋々と」した地域づくり、介護予防事業に積極的に関与することを期待されています。2025年問題の解決に向け展開されている地域包括ケアシステムの確認と今後の展望について、参加者の皆さんと共に考える場にしたいと考えております。全国学会が専門分化する中、本学会がより多くの新人・中堅の理学療法士の学術発表の場となり、若い理学療法士が将来の夢を語り、それを実現するための情報を共有しあえるよう、活発に意見が交わされることを期待しております。

最後に、多くの知見を吸収された後は、世界の船乗りが認めるみなと横浜の夜景をクルーズ船で楽しむもよし、中華街や関内で世界の料理を堪能されるもよし、カップヌードルの歴史をたどるもよし、足を延ばして鎌倉の風情を味わうもよし、是非、横浜の2日間を満喫していただきたいと思います。本学会の企画・運営を担当している（公社）神奈川県理学療法士会運営スタッフ一同、理学療法士は無論、県民の皆さんのご参加を心よりお待ちしております。（公社）神奈川県理学療法士会会員の知力と腕力を結集し、おもてなしの心で皆様にとって貴重な機会となることを期待しております。

会場案内図

5F



参加者へのお知らせとお願い

会員は会員証による会員証明・参加受付・ポイント管理を導入しております。当日は会員証を忘れずにお持ちください。

《参加登録について》

登録受付は事前登録（会員のみ）と当日登録がございます。

会員の皆様には事前参加登録を推奨しております。

ネームカード（参加費領収書を兼ねた参加証）は参加当日、該当する受付にてお渡しいたします。事前登録されても学会前に発送いたしません。

領収書の再発行、会員専用マイページからの発行はできません。大切に保管してください。

1. 参加登録費

参加形態	事前参加登録	当日参加登録
会員	6,300 円	8,000 円
非会員	—	10,000 円
学生	—	1,000 円

- 事前参加登録の支払いは、日本理学療法士協会指定クレジットカード払いと日本理学療法士協会指定バーコード式請求書による支払い（コンビニエンスストア支払い）の2種類となります。
なお、バーコード式請求書での支払いには、収納手数料として270円を加算させていただきます。
- 事前参加登録完了後は、いかなる理由があろうともキャンセルはお受けできません。
- 当日参加登録は、現金支払いのみの取り扱いとなります。
- 学生とは、医療系養成校在学者を指しますが、理学療法士の資格がある方は該当しません。参加登録の際に学生証を提示してください。

2. 事前参加登録について（会員のみ）

事前登録締切日：2016年10月20日（木）23時59分

- インターネットでのオンライン登録になります。
学会ホームページ（<http://kanburo35.umin.jp/>）、または日本理学療法士協会ホームページ内に設置しております事前参加登録サイトよりお申し込みください。
- 事前参加登録には、E-mailアドレスの登録が必要です。協会ホームページから会員専用マイページにログインの上、E-mailアドレス登録を行ってください。
- オンライン事前参加登録完了後、日本理学療法士協会よりご登録E-mailアドレスへ受付完了のメールが送信されます（送信には手続き上時間を要する場合がございます）。このメールは、事前参加登録を証明するものとなりますので、当日まで大切に保管してください。
- 決済状況は会員専用マイページよりご確認ください。
開催1週間前迄にご請求が確定しなかった場合（決済状況が「未納」の場合）は事前参加登録を無効とさせていただきます。必ず事前に決済状況をご確認ください。
- 参加当日、事前参加登録専用の受付窓口にて会員証を提示し、受付をお済ませください。
- 受付にてネームカード（参加費領収書を兼ねた参加証）をお渡しいたします。
領収書の再発行、会員専用マイページからの発行はできません。

事前参加登録申込方法

日本理学療法士協会指定クレジットカード払い

- 日本理学療法士協会指定クレジットカードは楽天カードです。
楽天カードは、日本理学療法士協会ホームページ会員専用マイページよりお申し込みください。
- 参加費の引落日は、楽天カードサイト内にてご確認ください。

日本理学療法士協会指定バーコード式請求書による支払い

- 事前参加登録後、ご登録の住所へバーコード式請求書を郵送いたします。
その際、収納手数料として270円を加算させていただきます。
請求書裏面記載の支払期日内にお支払いください。支払い期限を過ぎますと事前登録は無効となります。

3. 当日参加登録について

- 会員の方は、専用の受付窓口にて会員証を提示し、参加費の支払い（現金支払いのみ）及び受付をお済ませください。
- 非会員・学生の方は、該当する受付にて参加費の支払い（現金支払いのみ）及び受付をお済ませください。
- 当日参加費の支払い後、ネームカード（参加費領収書を兼ねた参加証）をお渡しします。
領収書の再発行、会員専用ページからの発行はできません。

4. 参加受付/クローク

参加受付	10月29日（土）	10月30日（日）
パシフィコ横浜 会議センター 3F 総合受付	9：30～17：30	8：30～15：20

- 会員は会員証による会員証明・参加受付・ポイント管理を導入しております。当日は会員証を忘れずにお持ちください。

クローク	10月29日（土）	10月30日（日）
パシフィコ横浜 会議センター 3F 311+312	9：30～18：00	8：30～17：30

- 貴重品（PC、タブレット端末等を含む）及び雨具等はお預かりできませんので予めご了承ください。

5. 託児所に関して

託児所のご利用は事前申し込みをいただいた方のみとさせていただきますので、ご了承ください。
ご希望の方は、学会ホームページ（<http://kanburo35.umin.jp/>）にて詳細をご確認ください。
託児所申し込み締切日：2016年10月21日（金）
※定員になり次第、締め切らせていただきますのでお早目にお申し込みください。

6. 企業展示

パシフィコ横浜 会議センター 3F 301+302 で行っておりますのでご来場ください。
スタンプラリーを開催いたします。各展示ブースにお立ち寄りいただき、スタンプを集めていただいた方に素敵な景品を差し上げます。

7. 書籍展示

パシフィコ横浜 会議センター 5F エスカレーター横 で行っておりますのでご来場ください。

8. その他

- 1) ネームカード（参加費領収書を兼ねた参加証）の携帯について
各会場への入場の際には、必ずネームカードの入ったホルダーを首から下げ、確認できるようにしてください。ネームカードの確認ができない方は会場への入場をお断りさせていただきます（一般公開講座は除く）。
- 2) 会場内での呼び出し
会場内での呼び出しは原則として行いませんのでご了承ください。
- 3) 携帯電話の使用
会場内では携帯電話の電源をお切りになるか、マナーモードに設定してください。
会場内での通話は禁止させていただきます。
- 4) 会場内での写真・動画撮影、録音
撮影許可証を持たない方のプログラム（ポスター演題含む）の写真・動画撮影・録音等は、発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のために禁止させていただきます。万が一、撮影・録音をしている方を見かけましたらデータの削除をさせていただきます。撮影・録音をしている方を見かけましたら近くのスタッフまでお声掛けください。当日、許可証を持った学会スタッフ等が撮影することがございますのでご了承ください。
- 5) 会場内での喫煙
会場内は禁煙です。指定された喫煙場所をお願いいたします。喫煙場所は当日会場にてご確認ください。
- 6) 駐車場
会場周辺には有料駐車場がございますが、混雑が予想されますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。なお、本学会より駐車場のご案内はいたしません。
- 7) 昼食
お弁当の販売は行いません。周辺レストラン等をご利用ください。
- 8) 飲食について
会場内での飲食は禁止とさせていただきます。
- 9) 期間中の宿泊について
各自で手配していただきますようお願いいたします。
- 10) 抄録検索・印刷サービス
本学会では、抄録検索・印刷サービスは行いません。抄録につきましては、学会ホームページより事前に印刷してご持参いただきますようお願いいたします。
- 11) 宅配便はロジスティクスセンター（展示ホール 2F）をご利用ください。
- 12) コピー・FAX・データ出力等はビジネス&サービスセンター（会議センター 1F、展示ホール 2F）をご利用ください。
- 13) 非常時の対応
緊急・非常時にはスタッフの指示に従ってください。また、緊急時に備えて必ず各自で非常口のご確認をお願いいたします。

《お問い合わせ》

会期前

第35回関東甲信越ブロック理学療法士学会 運営事務局

株式会社コンベンションアカデミア

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-35-3 本郷 UCビル 4階

TEL：03-5805-5261 FAX：03-3815-2028 E-mail：kanbro35@coac.co.jp

会期中 直接会場へご連絡ください。

パシフィコ横浜 TEL：045-221-2155（総合案内）

新人教育プログラムおよび専門・認定理学療法士に関わるポイントについて

受付で会員証をかざすことにより、ポイントが自動管理されます。マイページへの反映は学会終了後2ヶ月程かかります。

新人教育プログラム履修者の方

発表者：理学療法の臨床 C-6 症例発表 3単位

専門領域研究部会に登録されている方

参加者：1. 学会参加

5) ブロック学術大会・学会 10ポイント

発表者：4. 学会発表等

4) 「ブロック学会」・「都道府県学会」での一般発表(指定演題含む)の筆頭演者 5ポイント

座長・演者へのお知らせとお願い

《座長の方へ》

- 1) 参加受付の後、ご担当セッション当日に総合受付内「講師・座長受付」にお越しください。
- 2) ご担当セッションの開始10分前までには、該当会場内スクリーンに向かって右前方の「次座長席」にご着席ください。

《口述発表 演者の方へ》

1. 発表形式

- 1) 発表時間は1演題につき10分(発表7分、質疑応答3分)です。
- 2) 会場にはWindows 7のPCをご用意しております。
- 3) 発表形式はすべて、PCによる発表(1面)のみとなります。
- 4) 対応するアプリケーションソフトはWindows版PowerPoint 2007~2013です。
- 5) 発表データは、メディア(USBメモリー、CD-R)でお持ち込みください。動画の使用、ご自身のPCのお持ち込みはできません。
- 6) 「PC受付」で試写と動作確認を行ってください。また、セッション開始10分前までには該当会場内スクリーンに向かって左前方の「次演者席」にお越しください。
- 7) 発表の際のPC操作は演台に設置してあるマウスを使用して、演者ご本人による操作をお願いいたします。
- 8) 演台上では発表時間終了前1分間に「黄」ランプが点灯し、発表終了時間で「赤」ランプが点灯いたします。

2. メディア持ち込みの方へ

- 1) 発表データのファイル名は「(演題番号)(氏名).pptx」としてください。
- 2) PowerPointに標準搭載されているフォントのみ使用可能です。
- 3) データを保存した記録媒体は、必ずコンピューターウイルスの検査を行ってください。
- 4) Macintosh版PowerPointで作成したデータは、互換性が損なわれる可能性があります。事前にWindows PCにて文字のずれ等、動作確認を行ってください。

3. 当日のデータ受付方法

PC 受付	10月29日(土)	10月30日(日)
パシフィコ横浜 会議センター 3F PC 受付	9:30~17:30	8:30~13:10

- 1) 発表開始時間1時間前までに「PC 受付」にてデータ登録、動作確認をしてください。受付されたデータはサーバーに登録させていただき、メディアはその場で返却いたします。コピーしたデータは、発表後に主催者が責任を持って消去いたします。
- 2) 受付でのデータ修正や編集を行うことはできませんのでご了承ください。
- 3) 2日目(10/30)の演者の方は、1日目(10/29)の15時30分より受付をいたします。
2日目早い時間帯の演者の方は、出来る限り前日に受付を済ませるようお願いいたします。

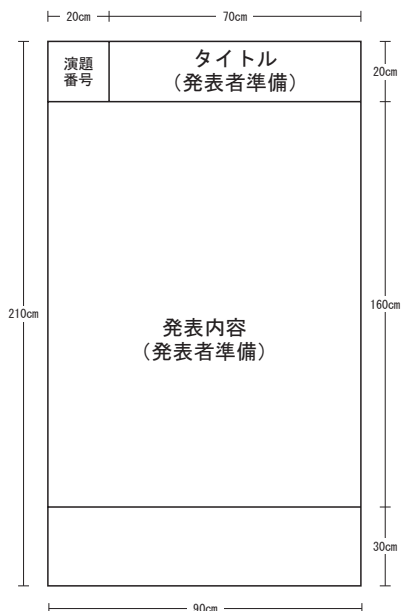
《ポスター発表 演者の方へ》

- 1) ポスターの貼付、撤去

	貼付時間	撤去時間
10月29日(土)	9:30~11:00	16:15~17:15
10月30日(日)	9:00~10:00	14:00~15:20

※指定時間を過ぎても撤去されないポスターは処分いたしますので予めご了承ください。

- 2) ポスターパネルに画鋏と演者リボンを用意いたします。
- 3) 演者受付は行いません。演者リボンを胸のあたりの見えるところに必ず付け、セッション開始時刻10分前に各自のポスター前で待機してください。
- 4) 本学会では座長による進行は行わず、自由討議形式を取らせていただきます。
該当セッション時間中は、その場を離れないようにお願いいたします。(その場を離れますと発表ポイントは付与されません。)
- 5) ポスター掲示
ポスター掲示には、ポスターパネル(横90cm×縦210cm)を用意いたします。
パネル左上に演題番号を主催者で用意いたします。
掲示は横90cm×縦160cmの範囲とします。



併催事業案内

一般公開講座

学会参加者も聴講できます。

日時 2016年10月30日(日) 15:30~16:30

会場 パシフィコ横浜 会議センター 5F 503 (第1会場)

「自分の可能性を求めて—2020年に向けて—」

講師：成田真由美 (リオデジャネイロ・パラリンピック 競泳 日本代表選手)

座長：佐藤 史子 (横浜市総合リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション部 地域支援課)

第 34 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 各賞受賞者紹介

【学会長賞】

演題番号：P1-61

演題名：「地域包括ケアシステム推進に向けた理学療法士の地域活動実践評価尺度の開発」

演者：渡邊 勸（社会福祉法人愛の会 介護老人保健施設 桜の郷 敬愛の杜）

【学会奨励賞】

演題番号：O-132

演題名：「術後一年での階段昇降能力に与える諸因子の検討」

演者：久保田 悦章（新上三川病院 リハビリテーション科）

演題番号：P2-46

演題名：「高齢心疾患患者のフレイル表現型による分類と心機能、身体機能の関連性」

演者：桑原 拓哉（群馬県立心臓血管センター リハビリテーション課）

【フレッシュマン奨励賞】

演題番号：P1-67

演題名：「トレッドミル走行運動が老齢期ラット脊髄における TrkB と GAP-43 の発現に与える影響」

演者：才木 涼（伊那中央病院）

第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会 各賞表彰について

第 35 回関東甲信越ブロック理学療法士学会では、理学療法に関する優秀な学術業績を社会に報告し還元すること、会員の学術活動を活性化して優秀な理学療法士の研究者を育成すること、関東甲信越ブロック理学療法士学会をさらに発展させることなどを目的として、学会長賞および学会奨励賞を選考いたします。

選考方法は学会長賞選考委員会が、投稿時における査読委員による評価と学会開催中に審査委員による評価を包括的に審議し、学会長賞および学会奨励賞、フレッシュマン奨励賞を決定いたします。

決定された演題には、本学会長より次回関東甲信越ブロック理学療法士学会（長野県予定）期間中に、賞状と記念品が授与されます。

なお、学会長賞および学会奨励賞が決定いたしましたら、筆頭演者に連絡いたします。

大会 1 日目 10月29日 (土)

	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場	第 4 会場
	5F 503	5F 501	5F 502	3F 303
9:00▶				
10:00▶	10:00 開会式 10:25			
11:00▶	10:30 教育講演 1 「脳画像所見にもとづいて 症状と予後を推測して 理学療法を計画する」 講師：手塚純一 司会：木村雅彦 11:30	10:30 口述発表 1 運動器系 1 座長：河西理恵 0-001～0-005 11:20	10:30 口述発表 2 生活環境支援系 1 座長：降島研吾 0-006～0-010 11:20	10:30 口述発表 3 教育管理系 1 座長：大木雄一 0-011～0-015 11:20
12:00▶		11:30 口述発表 5 運動器系 2 座長：唐澤達典 0-021～0-025 12:20	11:30 口述発表 6 (症例報告) 内部障害系 1 座長：松嶋真哉 0-026～0-030 12:20	11:30 口述発表 7 (症例報告) 神経系 1 座長：岡安 健 0-031～0-035 12:20
13:00▶				
14:00▶	13:30 基調講演 「理学療法士が取り組むべき こと—地域包括ケア構築に 向けて—」 講師：川越雅弘 司会：林 克郎 15:00	13:30 基調講演サテライト会場 1		
15:00▶				
16:00▶		15:15 口述発表 9 運動器系 3 座長：橋本貴幸 0-041～0-046 16:15	15:15 口述発表 10 内部障害系 2 座長：加藤太郎 0-047～0-052 16:15	15:15 口述発表 11 (症例報告) 運動器系 4 座長：小尾伸二 0-053～0-058 16:15
17:00▶	16:30 教育講演 2 「呼吸循環障害とその 管理状況を把握して 理学療法を計画する」 講師：木村雅彦 司会：手塚純一 17:30	16:30 口述発表 13 運動器系 5 座長：相馬光一 0-065～0-070 17:30	16:30 口述発表 14 基礎系 2 座長：中山裕子 0-071～0-076 17:30	16:30 口述発表 15 (症例報告) 運動器系 6 座長：染谷卓志 0-077～0-082 17:30
18:00▶				

大会 2 日目 10 月 30 日 (日)

	第 1 会場	第 2 会場	第 3 会場	第 4 会場
	5F 503	5F 501	5F 502	3F 303
9:00▶		9:00 口述発表 17 神経系 4 座長：溝部明文 0-089~0-094	9:00 口述発表 18 内部障害系 3 座長：横山浩康 0-095~0-100	9:00 口述発表 19 運動器系 7 座長：薄 直宏 0-101~0-106
10:00▶		10:00	10:00	10:00
10:20	シンポジウム 「理学療法士によるスポーツ 現場への関わり方 ーリオ五輪での活動と 2020 東京オリパラに向けてー」 講師：加藤知生 小泉圭介 地神裕史 司会：加藤知生			10:10 口述発表 21 教育管理系 2 座長：浅野信一 0-113~0-118
11:00▶	11:50			11:10
12:00▶				
12:40	表彰式・ 次期学会会長挨拶			
13:00▶	13:00 口述発表 23 物理療法系 1・ 生活環境支援系 4 座長：山路雄彦 0-125~0-130	13:00 口述発表 24 運動器系 9・内部障害系 4 座長：中山彰博 0-131~0-136	13:00 口述発表 25 運動器系 10 座長：具志堅敏 0-137~0-142	13:00 口述発表 26 基礎系 3 座長：加茂野有徳 0-143~0-148
14:00▶	14:00	14:00	14:00	14:00
14:10	口述発表 28 神経系 5 座長：信太奈美 0-155~0-160	14:10 口述発表 29 生活環境支援系 6 座長：三科貴博 0-161~0-166	14:10 口述発表 30 運動器系 11 座長：相澤純也 0-167~0-172	14:10 口述発表 31 基礎系 4 座長：白田 滋 0-173~0-178
15:00▶	15:10	15:10	15:10	15:10
15:30	一般公開講座 「自分の可能性を求めて ー2020 年に向けてー」 講師：成田真由美 司会：佐藤史子			
16:00▶	16:30			
16:30	閉会式			
17:00▶	16:40			
18:00▶				

第5会場	ポスター会場	企業展示会場
3F 304	3F 301 + 302	3F 301 + 302
		8:30
9:00 □述発表 20 (症例報告) 運動器系 8 座長：村野 勇 O-107～O-112	9:00 ポスター貼付	◀9:00
10:00	10:00	◀10:00
10:10 □述発表 22 (症例報告) 生活環境支援系 3 座長：澤田小夜子 O-119～O-124	ポスター掲示	◀11:00
11:10		◀12:00
		◀13:00
13:00 □述発表 27 (症例報告) 生活環境支援系 5 座長：山崎哲司 O-149～O-154	13:00 ポスター発表 (討議) ポスター発表 4 P-066～P-091 ポスター発表 5 (症例報告) P-092～P-100 ポスター発表 6 (フレッシュマン) P-101～P-130	◀14:00
14:00	14:00	◀15:00
14:10 □述発表 32 (症例報告) 運動器系 12 座長：工藤 誠 O-179～O-184	ポスター撤去	◀16:00
15:10	15:20	◀17:00
		15:30
		◀18:00
		◀18:00

発表演題

大会1日目 10月29日(土)

口述発表		演題番号	掲載頁
口述発表 1	運動器系 1	0-001~0-005	p.20
口述発表 2	生活環境支援系 1	0-006~0-010	p.20
口述発表 3	教育管理系 1	0-011~0-015	p.21
口述発表 4	基礎系 1	0-016~0-020	p.21
口述発表 5	運動器系 2	0-021~0-025	p.22
口述発表 6 (症例報告)	内部障害系 1	0-026~0-030	p.22
口述発表 7 (症例報告)	神経系 1	0-031~0-035	p.23
口述発表 8 (症例報告)	神経系 2	0-036~0-040	p.23
口述発表 9	運動器系 3	0-041~0-046	p.24
口述発表 10	内部障害系 2	0-047~0-052	p.24
口述発表 11 (症例報告)	運動器系 4	0-053~0-058	p.25
口述発表 12	神経系 3	0-059~0-064	p.25
口述発表 13	運動器系 5	0-065~0-070	p.26
口述発表 14	基礎系 2	0-071~0-076	p.26
口述発表 15 (症例報告)	運動器系 6	0-077~0-082	p.27
口述発表 16	生活環境支援系 2	0-083~0-088	p.27
ポスター発表			
ポスター発表 1		P-001~P-020	p.28
ポスター発表 2 (症例報告)		P-021~P-034	p.29
ポスター発表 3 (フレッシュマン)		P-035~P-065	p.30

プログラム

大会 1 日目 10 月 29 日 (土) 10:30~11:20

口述発表 1 運動器系 1

第 2 会場 (5F 501)

座長：河西 理恵 (国際医療福祉大学)

- O-001 肩関節屈曲動作における肩甲骨と胸椎の関係
西早稲田整形外科 リハビリテーション科 鶴岡 祐治
- O-002 罹病期間の違いが腰椎椎間板ヘルニア患者の多裂筋横断面積に与える影響
船橋整形外科 市川リハビリクリニック 三上 紘史
- O-003 頸椎回旋可動域と体幹側腹筋の関係性
医療法人社団 鎮誠会 千葉さぼーるクリニック リハビリテーション科 鈴木 康仁
- O-004 健常者における腹臥位股関節伸展運動時の股関節・体幹伸筋群の筋活動パターンの検討
渕野辺総合病院 医療技術部 リハビリテーション室 雨宮 耕平
- O-005 脊椎脊髄疾患術後患者に対する合同プログラムの取り組みの紹介
横浜市立脳卒中・神経脊椎センター リハビリテーション部 小川 明久

口述発表 2 生活環境支援系 1

第 3 会場 (5F 502)

座長：隆島 研吾 (神奈川県立保健福祉大学)

- O-006 SPDCA サイクルに基づいたリハビリテーションの提供—GOAL と満足度の相関調査—
株式会社 アオバメディカル あおば福祉サービス 訪問看護 佐久川拓郎
- O-007 簡易リンパドレナージが生体におよぼす影響について—更年期障害を対象に—
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 井上 和久
- O-008 短時間型通所リハにおける Frailty phenotype と Co-morbidity index の実態調査
昭和大学 保健医療学部 理学療法学科/
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 池田 崇
- O-009 混合研究法による介護予防運動教室の効果の検証
訪問看護リハビリテーションネットワーク 小澤 貴史
- O-010 ロコモティブシンドローム疑いの要支援者は膝痛が強くと健康関連 QOL が低下する
慶友整形外科病院 リハビリテーション科 入山 渉

口述発表3 教育管理系 1

第4会場 (3F 303)

座長：大木 雄一（医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院）

- O-011 4年制大学の理学療法学科に在籍する学生の自己教育力
くらた病院 青柳 達也
- O-012 臨床実習における新たな実習指導ツールの導入と有用性の検討～学生アンケート結果から～
千葉医療福祉専門学校 理学療法学科 井上 美幸
- O-013 理学療法学生における臨床実習関連ストレスの分類とストレス度との関連性
高崎健康福祉大学 保健医療学部 樋口 大輔
- O-014 臨床実習内容について理学療法士へのアンケート調査
信州リハビリテーション専門学校 理学療法学科 木島 隆
- O-015 臨床実習における新たな実習指導ツールの導入と有用性の検討～実習指導者アンケート結果から～
千葉医療福祉専門学校 理学療法学科 松田 徹

口述発表4 基礎系 1

第5会場 (3F 304)

座長：富田 和秀（茨城県立医療大学）

- O-016 回復期リハビリテーション患者を対象としたHMB含有飲料飲用の効果検討に関する経過報告
青葉さわい病院 リハビリテーション科 新田 智裕
- O-017 診療報酬改定に伴う、当回復期リハビリテーション病棟でのアウトカム評価での比較
蒲田リハビリテーション病院 リハビリテーション科 櫻井 貴浩
- O-018 漸増起立負荷による中高年者の簡易的運動耐容能測定法の再現性
松本市立病院 リハビリテーション科/
信州大学大学院 医学系研究科 保健学専攻 博士後期課程 中村 慶佑
- O-019 定期的な運動習慣のある中・高齢者における運動頻度の違いが歩行およびバランス能力におよぼす影響
了徳寺大学 健康科学部 理学療法学科/
医療法人社団了徳寺会 葛西整形外科内科 リハビリテーション科 兎澤 良輔
- O-020 自立歩行可能な高齢者の膝伸展筋力標準値一メータ分析による算出—
北里大学 医療衛生学部/北里大学大学院 医療系研究科 上出 直人

口述発表 5 運動器系 2

第 2 会場 (5F 501)

座長：唐澤 達典 (信州大学医学部附属病院)

- O-021 自在曲線定規およびメジャーを用いた胸椎伸展可動性測定信頼性の検討
船橋整形外科市川クリニック 益子 大希
- O-022 成長期腰椎分離症のスクリーニング～自己記入式腰痛問診票の有用性について～
西川整形外科 リハビリテーション部 大山 隆人
- O-023 簡易的な腰椎分離症の骨癒合判別方法の開発—腰椎骨叩打による振動検査法の応用—
IMS グループ 東戸塚記念病院 望月 裕太
- O-024 若年性スポーツ選手における仙骨疲労骨折と成長期腰椎分離症の疼痛部位と範囲の検討
西川整形外科 大槻 哲也
- O-025 高校生ボート競技選手における腰痛と体幹筋力の関係についての調査報告
医療法人社団 誠馨会 千葉メディカルセンター リハビリテーション部 猪狩 寛城

口述発表 6 (症例報告) 内部障害系 1

第 3 会場 (5F 502)

座長：松嶋 真哉 (聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院)

- O-026 コントロール不良な重症不整脈患者を担当して～負荷量に着目した介入～
東海大学医学部附属病院 診療技術部 リハビリテーション技術科 金子 真人
- O-027 維持期血液透析患者に対するリハビリ入所により適切なドライウェイト管理で減量し、GA 値が改善した症例
介護老人保健施設ハートフル瀬谷 リハビリテーション部 上杉 睦
- O-028 肺癌による下肢麻痺を伴う多発骨転移を合併した統合失調症患者の理学療法の経験
医療法人社団光生会 平川病院 奥出 聡
- O-029 造血幹細胞移植前から理学療法を行い運動耐容能や下肢筋力低下を予防した症例—減量期から退院までの経過—
埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 細谷 学史
- O-030 Closed Kinetic Chain による運動が大腿神経完全麻痺の膝折れに有効であった一症例
千葉大学医学部附属病院 リハビリテーション科 深田 亮

口述発表7 (症例報告) 神経系1

第4会場 (3F 303)

座長：岡安 健 (東京医科歯科大学医学部附属病院)

- O-031 回復期2C病棟における過去3年間の脳卒中患者への長下肢装具治療とFIMの関連性
特定医療法人財団 健和会 柳原リハビリテーション病院 高岩 伸好
- O-032 小脳出血により失調症状を呈した症例に対する応用歩行の再獲得～溪流釣りという余暇活動の復帰を目指して～
医療法人社団三秀会 羽村三慶病院 リハビリテーション科 坂井 麻人
- O-033 免荷式リフトPOPOによる段階的な免荷量設定での歩行練習～過剰努力を生じない歩行を目指して～
IMSグループ 新戸塚病院 渡部 真由
- O-034 維持期脳卒中患者の下腿三頭筋の痙性に対する電気刺激療法の経験
医療法人社団 筑波記念会 筑波記念病院 リハビリテーション部 藤沢 遼
- O-035 脳卒中患者に対しレール走行式追従型免荷リフト使用による歩行練習効果
船橋市立リハビリテーション病院 谷津 信乃

口述発表8 (症例報告) 神経系2

第5会場 (3F 304)

座長：渡辺 学 (北里大学メディカルセンター)

- O-036 めまいを伴う歩行障害を有する小脳出血症例に対する頭位変換・視運動課題を付加した歩行練習の効果の検討
医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院 理学療法部門/
杏林大学大学院 保健学研究科 リハビリテーション科学分野 清水 夏生
- O-037 脳静脈洞血栓症により重度左片麻痺、感覚低下を呈した全盲の症例
東京ベイ・浦安市川医療センター 小蒲 京子
- O-038 脳卒中片麻痺患者に対し機能的電気刺激療法と免荷式歩行訓練を併用し歩行能力改善を認めた一症例
社会医療法人 慈生会 等潤病院 リハビリテーション部 桑田真理奈
- O-039 多系統萎縮症の嚥下機能と自律神経障害の関係
医療法人佐藤病院リハビリテーション科 土岐 哲也
- O-040 幼児期発症 Guillain-Barre 症候群 (GBS) の一例に対する理学療法の経験
埼玉医科大学病院 リハビリテーション科 仲里 美穂

口述発表 9 運動器系 3

第 2 会場 (5F 501)

座長：橋本 貴幸 (総合病院土浦協同病院)

- O-041 Scale for stepping the stairway の開発～階段昇降動作評価を再考する～
社会医療法人 中山会 宇都宮記念病院 リハビリテーション科 五月女宗史
- O-042 階段降段時の下肢回旋角度に対する足角の影響
医療法人社団 広瀬整形外科リウマチ科 リハビリテーション科 長谷川亮之
- O-043 整形外科疾患患者における入院早期に予測した退院時の転倒自己効力感 (FES-I) は妥当か？
医療法人社団日高会 日高病院リハビリテーションセンター
急性期リハビリ室/群馬大学大学院保健学研究科 大谷 知浩
- O-044 つま先立ち時の上肢支持量, 足関節角度が下腿三頭筋活動量に与える影響～カーフレイズへの
応用～
医療法人愛広会 関川愛広苑 脇野 俊貴
- O-045 セラチューブを用いた歩行自立に必要な簡易的膝伸展筋力測定方法の検討—セラチューブの抵
抗力の定量化—
川崎市中部リハビリテーションセンター 山岸 保則
- O-046 階段昇降能力に影響する運動能力の検討
国立国際医療研究センター リハビリテーション科 河野 英美

口述発表 10 内部障害系 2

第 3 会場 (5F 502)

座長：加藤 太郎 (文京学院大学)

- O-047 心不全患者に対するリハビリテーションの費用対効果と生活意欲との関連性について
医療法人社団日高会 日高病院 リハビリテーションセンター
急性期リハビリ室 山根 達也
- O-048 心不全カンファレンスは入院期間を短縮させるか～ランダム化比較試験による検討～
東京医科大学茨城医療センター リハビリテーション療法部 伊藤 申泰
- O-049 多職種協同と個別指導を重視した糖尿病支援チームの活動報告と今後の課題
医療法人 関東病院 リハビリテーション科 鈴木 拓也
- O-050 糖尿病教育入院患者における歩数を用いた身体活動の継続自信度評価の開発—信頼性と妥当性
の検討—
埼玉医科大学総合医療センター 岩田 一輝
- O-051 1/f ゆらぎを持つ機械乗馬は副交感神経活動を賦活化し血管内皮機能を改善させるか
社会医療法人 河北医療財団 河北リハビリテーション病院 石谷 周士
- O-052 ICU における PT 専任配置の効果
横浜市民病院 リハビリテーション部 井出 篤嗣

座長：小尾 伸二 (山梨大学医学部附属病院)

- O-053 骨粗鬆症性椎体骨折にうつ病を合併した症例の疼痛と歩行能力の改善について
JCHO 東京山手メディカルセンター リハビリテーション部 原 豊寛
- O-054 立位保持に難渋した右大腿切断患者に対する治療経験
磯子中央病院 リハビリテーション科 相馬 大作
- O-055 肩関節周囲炎を呈した症例～更衣動作 (結帯動作) に注目して～
医療法人社団 三穂会 三宅整形外科小児科クリニック
リハビリテーション科 秋山 智則
- O-056 洗濯物干し動作時の右肩の疼痛が残存している鏡視下肩腱板修復術後症例に対する理学療法
小田原市立病院 リハビリテーション室 小澤 哲也
- O-057 義足を用いて自宅復帰した症例～Amputee Mobility Predictor をもとに介助量軽減を目指して～
医療法人 横浜平成会 平成横浜病院 リハビリテーション科 清原麻衣子
- O-058 橈骨頭の動態に着目し症例改善を認めた上腕骨外側上顆炎の一症例
医療法人アレックス 上田整形外科クリニック
スポーツ関節鏡センター リハビリテーション科 松本 渉

座長：金子純一郎 (国際医療福祉大学)

- O-059 脳卒中患者への早期離床訓練開始に対する効果の検討
医療法人財団 健貢会 総合東京病院 リハビリテーション科 佐藤 圭祐
- O-060 家族介護力別にみた脳卒中患者の自宅退院を予測する入院時 ADL 自立度—JARD 多施設登録データをを用いた分析—
八千代リハビリテーション学院 理学療法学科 佐藤 惇史
- O-061 くも膜下出血発症後に続発性正常圧水頭症を併発し、シャント術後の機能回復に影響を及ぼす因子の検討
社会医療法人社団 森山医会 森山記念病院 リハビリテーション科 米田 若奈
- O-062 脳卒中患者における Balance Evaluation Systems Test (BESTest) 各セクションと身体機能障害の関連性
公立七日市病院/群馬大学大学院保健学研究科 長谷川 智
- O-063 脳卒中片麻痺者の麻痺側ならびに非麻痺側下肢の筋出力特性
北里大学 大学院 医療系研究科 榎 育実
- O-064 運動補助器具を用いた介入効果～脳卒中片麻痺に対する立位・歩行能力への影響～
専門学校 東京医療学院 理学療法学科 山本純一郎

口述発表 13 運動器系 5

第 2 会場 (5F 501)

座長：相馬 光一 (神奈川リハビリテーション病院)

- O-065 片側性変形性股関節症患者の患側および健側下肢筋力～健常者との比較～
座間総合病院リハビリテーション科/北里大学大学院医療系研究科 関田 惇也
- O-066 人工関節全置換術 (THA) 術後、術式による違いが入院日数、歩行能力に及ぼす影響
順天堂東京江東高齢者医療センター 浮貝 美穂
- O-067 THA 術後患者の術後 3 ヶ月における JHEQ スコアの不良群の特徴
松戸整形外科病院 リハビリテーションセンター 鈴木 則幸
- O-068 人工股関節全置換術後の靴下着脱動作と術前股関節周囲筋力の関係
新潟臨港病院 リハビリテーション科 小柳 健太
- O-069 骨盤水平面アライメントの評価法に関する検討
座間総合病院 リハビリテーション科 大野 敦生
- O-070 TKA 術後 1 年の疼痛に関連する術後 3 ヶ月時の因子の検討
特定医療法人 慶友会 慶友整形外科病院 川島 雄太

口述発表 14 基礎系 2

第 3 会場 (5F 502)

座長：中山 裕子 (新潟中央病院)

- O-071 地域包括ケア病棟における入院時の機能と在院日数の関係
公益財団法人 佐々木研究所附属 杏雲堂病院 藤原 菜見
- O-072 歩行時の arm swing のパラメータと対称性の検討
埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究所
リハビリテーション学専修 博士前期課程 平田 恵介
- O-073 妊産婦の身体症状と理学療法士による予防介入の可能性の検討
東京医科歯科大学 医学部附属病院 リハビリテーション部 永見 倫子
- O-074 スマートフォンアプリケーションを用いた歩行課題における注意需要の評価
神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻 鈴木 智高
- O-075 肥満者の立位アライメントと静的バランス能力の特徴
かごた整形外科クリニック 山本 苑子
- O-076 健常若年者における 4m 歩行テストの妥当性
富士見医療福祉センター 富士見高原病院 理学療法科 両角 正敏

座長：染谷 卓志 (村井クリニック)

- O-077 膝関節滑膜骨軟骨腫症に対し腫瘍用人工膝関節置換術を施行した症例
長野市民病院 リハビリテーション科 渡邊 友彦
- O-078 両人工股関節全置換術患者の歩行効率向上、現職復帰を目指したアプローチ [ストリームラインによる機能改善]
医療法人 横浜平成会 平成横浜病院 リハビリテーション科 千葉 翔梧
- O-079 変形性膝関節症により下腿外側部痛を呈した一症例
座間総合病院 リハビリテーション科 岩村 元気
- O-080 両側同時 TKA を施行し歩行中の膝関節運動が改善した一症例
国際医療福祉大学三田病院 リハビリテーション室 鈴木 彬文
- O-081 左右で別々の術式の人工股関節全置換術を施行した一症例 前方進入と後方進入の介入内容の検討
順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科 渡部 幸司
- O-082 右人工膝関節全置換術後、歩行時の膝伸展不全を呈した症例～再評価、治療アプローチの再考を通して～
医療法人 横浜平成会 平成横浜病院 リハビリテーション科 岩崎 咲羅

座長：坪内 敬典 (茅ヶ崎リハビリテーション専門学校)

- O-083 脳卒中発症後から大腿骨近位部骨折受傷までの期間について
飯山赤十字病院 竹前 秀一
- O-084 障害者通所施設を利用した地域在住障害者における屋外移動自立度の改善が屋外生活空間での活動に及ぼす効果
社会福祉法人東京援護協会 練馬区立心身障害者福祉センター
練馬区中途障害者通所事業 妹尾 浩一
- O-085 脳卒中片麻痺患者の自宅での家事実施状況の調査
介護老人保健施設 ハートフル瀬谷 高橋 茉也
- O-086 訪問リハビリテーション利用前の状況の違いによる日常生活動作能力の変化について
医療法人財団 健貢会 総合東京病院 診療技術部 リハビリテーション科 片桐 創太
- O-087 家族間コミュニケーションが ADL 能力に与える影響について
医療法人財団 東京勤労者医療会 代々木病院 通所リハビリテーション 長澤 良介
- O-088 当院回復期リハビリテーション病棟における退院支援の取り組み
株式会社日立製作所 ひたちなか総合病院 リハビリテーション科 見越 貴行

- 10月29日(土)午後
- P-001 立ち上がり動作にて下肢機能の左右差をみるための評価指標の検討—重心動揺計を用いて—
東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 吉田 啓晃
- P-002 体幹前方/後方移行位における胸骨加圧後の歩行動作と筋機能について
医療法人大樹会 ふれあい鎌倉ホスピタル リハビリテーション科 土屋 元明
- P-003 部分荷重練習方法がその後の片松葉杖歩行に与える影響について
東京湾岸リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科 大橋 亮介
- P-004 学会版 MMT の概念を利用したブリッジ運動の筋力検査作成の試み
東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 中山 恭秀
- P-005 回復期病棟における入院時の活動量と栄養状態及び意欲との関連
さいたま記念病院 リハビリテーションセンター 赤塚 友里
- P-006 75 歳以上後期高齢者と 85 歳以上超高齢者における心肺運動負荷試験の安全性と比較
小金井リハビリテーション病院 リハビリテーション科 伊藤 将
- P-007 脳卒中片麻痺患者の歩行に対する装具療法～三次元動作解析システムを用いた検証～
IMS グループ 医療法人社団 明芳会 横浜新都市脳神経外科病院
リハビリテーションセンター 近藤 亮介
- P-008 統合失調症患者に理学療法を実施した場合の歩行能力の変化と測定項目の検討
湘南病院 リハビリテーション室 杉 輝夫
- P-009 急性期病院退院時の歩行獲得予測因子についての検討
横浜総合病院 リハビリテーション科 井澤 菜苗
- P-010 介護老人保健施設での在宅復帰向上の対策～入所時在宅復帰希望者で出来なかった者に焦点をあてた検討～
介護老人保健施設 ハートケア湘南・芦名 小武海将史
- P-011 急性期病院における下肢切断者に対するリハビリテーションの現状と理学療法士の認識調査
神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科 島津 尚子
- P-012 フィリピン人事交流研修報告～理学療法士の視点で見えたもの～
JA 長野厚生連佐久総合病院 理学療法科 深町光太郎
- P-013 (公社) 埼玉県理学療法士会 27 年度活動報告 急性期病院と回復期病院間での情報共有に関する実態調査
埼玉県理学療法士会 職能局 医療保険部 廣瀬 友太
- P-014 (公社) 埼玉県理学療法士会 27 年度活動報告 回復期病院からの在宅移行に対するケアマネジャーの意識調査
(公社) 埼玉県理学療法士会 職能局 医療保険部 小芝 健

- P-015 パーキンソン病患者の無動・固縮・振戦が基本動作能力に及ぼす影響について
東京慈恵会医科大学附属第三病院 井上 優紀
- P-016 造血幹細胞移植患者介入後の骨格筋量の推移
東京慈恵会医科大学附属柏病院 リハビリテーション科 深田 実里
- P-017 夜勤業務に就労する糖尿病教育入院患者に対する多職種での関わり
医療法人 関東病院(財団) リハビリテーション科 宗村 明子
- P-018 胃癌を呈し動作意欲低下した患者に対するリハビリ参加率・病棟 FIM 改善を目的とした応用行動分析的介入
医療法人社団千葉秀心会 東船橋病院 川口 沙織
- P-019 腰部脊柱管狭窄症による歩行速度低下に対して股関節屈曲を補助する簡易バンドが有効であった一症例
JA とりで総合医療センター リハビリテーション部 山田壮一郎
- P-020 肺炎患者の基本動作への影響因子
東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 中村智恵子

ポスター発表2 (症例報告)

ポスター会場 (3F 301+302)

- P-021 腹臥位装置の導入によって、呼吸障害の改善に加えて側彎の改善がみられた1事例
重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎 リハビリテーション部 大沼 博
- P-022 膝蓋靭帯断裂術後の筋出力低下に対し Mirror Therapy が著効した一例
JCHO 東京蒲田医療センター リハビリテーション科 箕輪 俊也
- P-023 人工股関節全置換術後、重度股関節屈曲制限を呈した症例～寛骨大腿関節の可動域に着眼した理学療法の経験～
特定医療法人 博仁会 第一病院 リハビリテーション室 佐藤 俊城
- P-024 左上腕骨近位端骨折後、拘縮肩を呈した一症例
青葉さわい病院 リハビリテーション科 山下 侑哉
- P-025 大腿骨骨幹部骨折患者の運動療法の再考
宇都宮リハビリテーション病院 武井 宏彰
- P-026 大腿骨外側顆前方の離断性骨軟骨炎を呈した症例に対する理学療法～ランジ疼痛一片脚スクワット疼痛+～
IMS グループ 高島平中央総合病院 リハビリテーション科 齋藤 涼平
- P-027 歩行時の単徑部痛に対し腰椎へのアプローチにて改善を認めた症例
横浜つづき整形外科 外川 慎吾
- P-028 末梢性顔面神経麻痺を呈した小児の理学療法
横浜市民病院 リハビリテーション部 今村 純子

- P-029 長期間の Maximum Insufflation Capacity が維持できた非侵襲的人工呼吸療法管理の ALS 症例
狭山神経内科病院 リハビリテーション科 今井 哲也
- P-030 低周波電気刺激を用い起立練習を行った脳卒中患者の一例～ABAB 法を用いて～
横須賀市立うわまち病院 大鷲 智絵
- P-031 回復期の脳卒中左片麻痺の足関節内反に対する FES の介入効果
イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 石井 岳
- P-032 指示理解困難で歩行練習に難渋する症例の理学療法～免荷装置を利用した症例の報告～
聖マリアンナ医科大学病院 リハビリテーション部 寺尾 詩子
- P-033 心原性脳塞栓症により運動失調を呈した症例—上肢の過活動軽減にて着座動作に改善がみられた—考察—
公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 汐田総合病院
リハビリテーション課 飯田 健治
- P-034 当院における脳卒中後遺症者の食事動作に対する関わり
リハビリテーション天草病院 関根 陽平

ポスター発表3 (フレッシュマン)

ポスター会場 (3F 301+302)

- P-035 繰り返しの投球が肩関節回旋筋群に与える影響について—一回旋筋群の回復をもとに投球間隔を探索する—
医療法人社団 葵会 AOI 国際病院 小野 優輔
- P-036 当院における地域学童野球への野球肘検診活動について
医療法人社団友志会 石橋総合病院 リハビリテーション科 伊沢 諒
- P-037 野球経験の有無が肘関節外反動揺性に与える影響
北里大学大学院医療系研究科 増間 弘祥
- P-038 ハーフマラソン後の身体機能変化及び筋疲労、筋疼痛について
湯村温泉病院 リハビリテーション部 訪問リハビリ科 渡邊 恭介
- P-039 転倒により脚長差を呈した症例、変形性足関節症の既往を踏まえた歩行訓練の工夫
一般社団法人巨樹の会 宇都宮リハビリテーション病院 森 祐希
- P-040 扁平足傾向の看護師に対してインソール挿入が身体機能、自覚症状に及ぼす影響
医療法人社団 健育会 竹川病院 リハビリテーション部 下鶴 舞
- P-041 変形性股関節症患者に対する腹横筋単収縮練習によって股関節痛が改善した一例
西早稲田整形外科 リハビリテーション部 糸部 恵太
- P-042 膝前十字靭帯再建術後の柔道復帰に向けた理学療法経験
医療法人社団 仁成会 高木病院 リハビリテーション科 安藤 克久
- P-043 頸髄症に対して姿勢筋緊張の調整と神経筋促通が基本動作獲得に有効であった症例
聖隷横浜病院 リハビリテーション室 西尾 翔多

- P-044 左無視を主症状に複数の高次脳機能障害を呈した症例に対し、動作の反復を通じて歩行能力の改善を認めた事例
医療法人社団 緑野会 みどり野リハビリテーション病院 妹尾 佑輝
- P-045 立ち上がり動作時の屈曲相に対して介入後、伸展相の後方重心が軽減した症例
鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院 鈴木 結貴
- P-046 福山型先天性筋ジストロフィーに対する GMFM の信頼性
東京女子医科大学 リハビリテーション部 中村 花穂
- P-047 車椅子座位前方滑りに対するアンカーサポートの工夫
介護老人保健施設 ソフィア都筑 高橋 遼
- P-048 当院における BI から推察される退院傾向について
東芝病院 リハビリテーション科 高松 眞
- P-049 当院訪問リハビリテーション利用者の活動参加の現状
新百合ヶ丘総合病院 リハビリテーション科 山下 美香
- P-050 重度脳梗塞患者の家族指導を積極的に行った症例—在宅復帰を果たした症例—
国立病院機構東埼玉病院 リハビリテーション科 平野誠一郎
- P-051 脳卒中重度片麻痺患者に対する非麻痺側寛骨の可動性が歩行に与える影響—シングルケーススタディによる検討—
IMS グループ 横浜新都市脳神経外科病院 青木 拓也
- P-052 閉ざされた生活を防止する為の退院支援～不整な坂道・階段に囲まれた自宅～
鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院 桑原 奈菜
- P-053 右片麻痺患者に対する再転倒防止アプローチ～役割確立と環境設定～
鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院 須藤 彩香
- P-054 慢性閉塞性動脈硬化症 (ASO) を合併した急性心筋梗塞 (AMI) 症例に対するトレッドミル歩行の運動負荷
イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 曾部 健太
- P-055 廃用症候群を呈した非代償性肝硬変患者の 1 例
荻窪病院 リハビリテーション科 村上 希
- P-056 患者指導とプログラム選択によりリハビリへの参加を促すことができた一症例
荻窪病院 リハビリテーション科 黒川 望
- P-057 胸椎圧迫骨折を呈した糖尿病症例への理学療法介入～足病変の予防に着目して～
社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター 安丸 直希
- P-058 多発骨転移を有する肺がん症例に対する理学療法の経験—早期自宅退院に向けた介入—
自治医科大学附属さいたま医療センター リハビリテーション部 新井 健介
- P-059 高校 3 年生が考える大学生活について
クロス病院 リハビリテーション科/国際医療福祉大学大学院 前田 雄太

10月29日(土)午後

- P-060 歩行補助具の選択に際して考慮すべきバランス因子について
宇都宮リハビリテーション病院 リハビリテーション科 小口 健太

- P-061 パーソナルスペースの侵害による姿勢の安定性の変化
国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科 中村 美穂

- P-062 Smedley 型握力計と Jamar 型握力計での測定値の相違
多摩川病院 リハビリテーション部 高山 崇志

- P-063 ビデオ映像を手がかりとした運動学習における思考過程の違いが動作獲得までの所要時間に及ぼす影響
IMS グループ医療法人 三愛会 埼玉みさと総合リハビリテーション病院 川住 美喜

- P-064 手動車いすを押して障害物を通過できる幅の知覚と経験差の関係
国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 理学療法学科 知識 愛花

- P-065 若年者において安静時血圧値は運動時の血圧値変化に影響するか
利根保健生活協同組合 利根中央病院 リハビリテーション科 馬場 都

発表演題

大会2日目 10月30日(日)

口述発表		演題番号	掲載頁
口述発表 17	神経系 4	0-089~0-094	p.34
口述発表 18	内部障害系 3	0-095~0-100	p.34
口述発表 19	運動器系 7	0-101~0-106	p.35
口述発表 20 (症例報告)	運動器系 8	0-107~0-112	p.35
口述発表 21	教育管理系 2	0-113~0-118	p.36
口述発表 22 (症例報告)	生活環境支援系 3	0-119~0-124	p.36
口述発表 23	物理療法系 1・生活環境支援系 4	0-125~0-130	p.37
口述発表 24	運動器系 9・内部障害系 4	0-131~0-136	p.37
口述発表 25	運動器系 10	0-137~0-142	p.38
口述発表 26	基礎系 3	0-143~0-148	p.38
口述発表 27 (症例報告)	生活環境支援系 5	0-149~0-154	p.39
口述発表 28	神経系 5	0-155~0-160	p.40
口述発表 29	生活環境支援系 6	0-161~0-166	p.40
口述発表 30	運動器系 11	0-167~0-172	p.41
口述発表 31	基礎系 4	0-173~0-178	p.41
口述発表 32 (症例報告)	運動器系 12	0-179~0-184	p.42
ポスター発表			
ポスター発表 4		P-066~P-091	p.43
ポスター発表 5 (症例報告)		P-092~P-100	p.44
ポスター発表 6 (フレッシュマン)		P-101~P-130	p.45

口述発表 17 神経系 4

第 2 会場 (5F 501)

座長：溝部 朋文 (横浜市立脳卒中・神経脊椎センター)

- O-089 パーキンソン病患者における重症度とすくみ足の関連性について
東京慈恵会医科大学附属第三病院 山本 裕子
- O-090 外来パーキンソン病患者に対する個別のおよび集団的リハビリテーションを併用したプログラムの効果
国立精神・神経医療研究センター病院 立石 貴之
- O-091 LIC 練習を実施した ALS 患者における肺活量の変化—LIC TRAINER を実践使用した 1 症例について—
国立精神・神経医療研究センター 寄本 恵輔
- O-092 ロボットスーツ HAL を用いた脳性麻痺児 (者) における歩行機能の変化
茨城県立医療大学付属病院 リハビリテーション部 理学療法科 松田真由美
- O-093 脳性麻痺痙直型両麻痺患者の Physical Cost Index と身体活動量の関係
あすか山訪問看護ステーション/南多摩整形外科病院 高木 健志
- O-094 短下肢装具の種類別による大殿筋、外側広筋の収縮タイミングの相違 歩行立脚初期に着目して
医療法人一成会 さいたま記念病院 リハビリテーションセンター 君野 夏央

口述発表 18 内部障害系 3

第 3 会場 (5F 502)

座長：横山 浩康 (熊谷総合病院)

- O-095 一般成人における咳嗽時最大呼気流速と音圧の関係
狭山神経内科病院 リハビリテーション科/
東京メディカル・スポーツ専門学校 芝崎 伸彦
- O-096 股関節伸展が呼吸機能および胸郭拡張に及ぼす影響について
医療法人社団 誠馨会 セコモディック病院 リハビリテーション部 塚田 悠平
- O-097 間質性肺炎患者に対する労作時酸素投与による 6 分間歩行距離延長効果とその予測因子の検討
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 呼吸器リハセンター 石原 敦司
- O-098 当院における高齢肺炎患者に対するリハビリテーションの効果と意欲との関連性
医療法人社団 日高会 日高病院 リハビリテーションセンター
急性期リハビリ室 浅野 翔平
- O-099 開腹手術後がん患者における術後リハビリテーション進行と関連因子の検討
湘南東部総合病院 衣田 翔
- O-100 食道癌患者における術前と自宅退院後の身体機能及び QOL 変化の検討
埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 高木 敏之

座長：薄 直宏 (東京女子医科大学八千代医療センター)

- O-101 変形性膝関節症における膝関節の力学的動態
医療法人 名圭会 白岡整形外科 園尾 萌香
- O-102 運動学的異常の制動は変形性膝関節症の進行を遅延させる
埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究所 博士後期課程/
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 村田 健児
- O-103 前十字靭帯損傷後に生じる自然修復の時期と MRI 所見、スポーツ復帰の検討
JIN 整形外科スポーツクリニック リハビリテーション科 伊藤 彰浩
- O-104 損傷膝前十字靭帯の治癒靭帯における再神経化への可能性
埼玉県立大学 保健医療福祉学部 理学療法学科 金村 尚彦
- O-105 急性期における ACL 再建術後の非温熱的超音波治療
越谷市立病院 リハビリテーション科 山下 圭悟
- O-106 新鮮前十字靭帯損傷に対する保護的早期運動療法の成績とスポーツ復帰の検討
JIN 整形外科スポーツクリニック リハビリテーション科 森 大志

座長：村野 勇 (総合病院土浦協同病院)

- O-107 腰椎脱臼骨折による筋力低下に対し、機能的電気刺激を 5 週間継続した一症例
医療法人健佑会 いちはら病院 リハビリテーション部 梶間 健史
- O-108 数年前より再発するめまい、気分不快感に対して Epley 法が著効した症例
杏林大学 保健学部 理学療法学科 松村 将司
- O-109 ミラーセラピーと運動療法によって足部のアロディニアが著減し、早期に歩行獲得できた下肢 CRPS1 症例
東京臨海病院 リハビリテーション室 碓井 千晴
- O-110 脳梗塞にて回復期病棟入院中にめまいが出現し Lempert roll 法による理学療法が著効した症例
東武練馬中央病院 川本 智代
- O-111 帯状疱疹後神経痛の腹筋麻痺により筋筋膜痛・歩行障害が出現した 1 症例
西鶴間メディカルクリニック リハビリテーション科 江原 弘之
- O-112 足関節背屈制限と荷重位で距骨下関節回内位を呈した症例～距腿関節の滑り運動低下と筋力低下に着目して～
IMS グループ 東戸塚記念病院 浅見 早織

口述発表 21 教育管理系 2

第 4 会場 (3F 303)

座長：浅野 信一 (社会医療法人 若竹会 つくばセントラル病院)

- O-113 産前産後休暇・育児休業を利用した当院リハビリテーション科部職員の復職時の不安・困ったことと必要な支援
日本赤十字社 那須赤十字病院 リハビリテーション科部 呉 和英
- O-114 新入職員に対する社会人基礎力養成研修の効果
医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 大木 雄一
- O-115 訪問リハ事業所での実施計画書を用いた教育方法の導入と効果の検討
在宅総合ケアセンター元浅草 伊藤 晃洋
- O-116 認知症サポーター養成講座開催の経験から、認知症有病者への職種による対応の違いを考察する
特別養護老人ホーム松葉園 リハビリテーション科 市川 保子
- O-117 患者影響度 8 分類 0 レベルの報告の強化を目指した取り組みから見えたこと
朝霞台中央総合病院 リハビリテーション科 小峰 隆弘
- O-118 産休・育休に伴う人員確保についての調査報告 (第 2 報)
(公社) 神奈川県理学療法士会 ライフサポート部 杉山さおり

口述発表 22 (症例報告) 生活環境支援系 3

第 5 会場 (3F 304)

座長：澤田小夜子 (独立行政法人 労働者健康安全機構 新潟労災病院)

- O-119 生活空間拡大と運動機能の変化—入院前活動レベルの高い左大腿骨頸部骨折後の訪問リハビリ介入例—
医療法人社団 緑成会 横浜総合病院 リハビリテーション科 比留木由季
- O-120 脳卒中既往者の外出に向けてのアプローチ～電車に乗車する取り組み～
ショウエイ訪問看護ステーション いずみ 星 朋郎
- O-121 一症例の QOL 向上を目指した訪問リハビリテーションの取り組み
リハビリの風訪問看護ステーションみなと 宮本 学
- O-122 在宅と医療機関との終末期の意義のとらえ方の相違
医療法人財団 健和会 新みさと訪問看護ステーション 須藤 京子
- O-123 機能性尿失禁に対しアプローチを行った症例～自宅退院を目指して～
医療法人 横浜平成会 平成横浜病院 リハビリテーション科 柴田磨奈実
- O-124 老健の繰り返し利用による身体機能向上, ADL 向上により在宅生活を継続した透析患者の 1 症例
介護老人保健施設 ハートフル瀬谷 松本 和

口述発表 23 物理療法系 1・生活環境支援系 4

第 1 会場 (5F 503)

座長：山路 雄彦 (群馬大学大学院)

- O-125 頭部拳上訓練と随意運動助助型電気刺激療法を併用した介入が舌骨上筋群の筋力に与える即時効果の検証
社会医療法人社団 森山医会 森山リハビリテーション病院 坂井 亮太
- O-126 干渉低周波とストレッチの相乗効果について一結帯動作の制限に着目してー
平和台病院 リハビリテーション科 岩立 健司
- O-127 全身振動刺激の単回施行が慢性期の脊髄疾患の痙縮とパフォーマンスに及ぼす影響
医療法人社団 輝生会 船橋市立リハビリテーション病院 岡 知紀
- O-128 介護老人保健施設での包括的褥瘡ケアシステム導入が経済面へ及ぼす影響
介護老人保健施設 ハートケア湘南・芦名 喜多 智里
- O-129 Pushing を認める症例に対する移乗助助方向の違いが助助負担感と助助量に及ぼす影響
社会医療法人嵐陽会 三之町病院 リハビリテーション科 山岸 洋平
- O-130 定期的な体力測定は生活上のリハビリ意識を生むのか～有料老人ホーム 30 か月間の検証～
介護付有料老人ホームアズハイム横浜いずみ中央 小川 康弘

口述発表 24 運動器系 9・内部障害系 4

第 2 会場 (5F 501)

座長：中山 彰博 (帝京科学大学)

- O-131 ストレッチポールを用いたエクササイズが片脚立位前額面アライメントに与える影響
医療法人財団健和会 みさと健和病院 リハビリテーション課 森川 健史
- O-132 スポーツ選手の内側円板状半月板に対する形成的切除術の臨床成績とリハビリテーションの実際
佐々木病院 横浜鶴見スポーツ&膝関節センター リハビリテーション部 江川 智広
- O-133 脊椎圧迫骨折患者における在院日数の影響因子とは？
TMG 宗岡中央病院 リハビリテーション科 志田 康成
- O-134 整形外科における精神心理学的問題に対する対応方法～経験年数別の検討～
医療法人社団光生会平川病院 上蘭 紗映
- O-135 心臓外科術後患者における body mass index (BMI) と心肺運動負荷試験 (CPX) の関係性
千葉県循環器病センター/千葉大学大学院 医学薬学府 稲崎 陽紀
- O-136 廃用症候群患者の疾患別における ADL 能力の違いについて
東京慈恵会医科大学附属病院 五十嵐祐介

座長：具志堅 敏 (文京学院大学)

- O-137 中学生男子サッカー選手における股関節内転筋損傷の発生因子に関する研究
社会医療法人 河北医療財団 河北リハビリテーション病院 セラピー部 宮澤 伸
- O-138 卓球競技における傷害発生に関係する因子の検討
群馬パース大学 保健科学部 理学療法学科/
昭和大学江東豊洲病院 リハビリテーション室 信澤 麻美
- O-139 手関節の位置関係が肩甲帯の筋活動に与える影響
松戸整形外科病院 横村 太志
- O-140 外傷性肩腱板断裂後 Pseudoparalysis を呈した症例に対する保存療法の一例
医療法人社団友志会 石橋総合病院 リハビリテーション科 安江 大輔
- O-141 Late Cocking~Acceleration と Ball Release~Follow through に生じる肘内側痛発生患者の投球動作の比較検討
広瀬医院 リハビリテーション部 髯 洋祐
- O-142 高校生野球選手における過去の投球肘障害と身体機能の関連性
薬師寺運動器クリニック 内田 拓実

座長：加茂野有徳 (昭和大学)

- O-143 異なる言語教示とフィードバックが立位前方リーチ動作課題に及ぼす即時的影響の検討：無作為化比較対照試験
川口市立医療センター 櫻井 貴紀
- O-144 立位前方リーチ動作課題に対して異なる言語教示が即時的に及ぼす影響
医療法人社団 玉永会 東京天使病院 鈴木 堯之
- O-145 歩行中の携帯電話操作と歩行路の障害物が歩行と携帯電話操作課題のパフォーマンスに及ぼす影響
小金井リハビリテーション病院 水村あゆみ
- O-146 定常歩行における両下肢からの筋シナジーの類似性の検討
埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科 リハビリテーション学専修 久保田圭祐
- O-147 携帯情報端末の加速度センサーを用いた健常者のリーチ動作の評価方法の検討
医療法人社団日高会 日高リハビリテーション病院 生方 雅人
- O-148 健常成人における Light Touch の接触方向の相違が立位姿勢動揺に及ぼす影響
榛名荘病院 リハビリテーション部/群馬大学大学院 保健学研究科 飯塚 隆充

座長：山崎 哲司 (横浜市総合リハビリテーションセンター)

- O-149 パーキンソン病を有する高齢症例におけるグラウンドゴルフの成績向上の検討
杏林大学 保健学部 理学療法学科 橋立 博幸
- O-150 両下腿切断者に対する断端管理と在宅復帰に向けた介入の振り返り
医療法人社団 輝生会 初台リハビリテーション病院 安食 翼
- O-151 物忘れ外来での理学療法士の関わりにより認知機能改善を認めたアルツハイマー型認知症の一例
帝京大学ちば総合医療センター リハビリテーション部 木本 龍
- O-152 要介護高齢者へのトランスセオレティカル・モデルの活用～運動の習慣化から身体活動の増進を目指した一例～
社会医療法人 博愛会 ほほえみ訪問看護ステーション 成田 悠樹
- O-153 介護職員との連携により生活機能を長期間維持している超高齢者の一症例
介護付有料老人ホーム ツクイ・サンシャイン町田西館 松岡 勇太
- O-154 エネルギー摂取量と消費量に注目し、急性期から在宅までの四肢周径を測定した視床出血片麻痺の一例
公益財団法人 老年病研究所附属病院 リハビリテーション部 梅澤 浩輝

口述発表 28 神経系 5

第 1 会場 (5F 503)

座長：信太 奈美 (首都大学東京)

- O-155 Head Mounted Display アダプテーションに足底接地の有無が及ぼす影響
医療法人社団青葉会 新座病院 リハビリテーション科 井出 彰悟
- O-156 Body Lateropulsion を呈した症例に対する段階的立位保持評価と介入の効果
医療法人社団千葉秀心会 東船橋病院 富田 駿
- O-157 退院時 Gait Efficacy Scale の有用性と日常生活自立度判断の検討
医療法人財団 健貢会 総合東京病院 リハビリテーション科 鈴木 淳志
- O-158 足漕ぎ車いす使用が回復期脳血管障害者の歩行に与える影響
七沢リハビリテーション病院 脳血管センター 理学療法科 尾崎 将俊
- O-159 歩行神経筋電気刺激装置とゲイトソリューションデザインを使用した歩行練習の即時的効果
鎌倉リハビリテーション 聖テレジア病院 米村 祐輝
- O-160 回復期における脳卒中片麻痺患者の麻痺側および非麻痺側下肢筋力の変化と歩行自立度についての検討
武蔵野陽和会病院 リハビリテーション科 野本 真広

口述発表 29 生活環境支援系 6

第 2 会場 (5F 501)

座長：三科 貴博 (健康科学大学)

- O-161 産官学連携による地域での運動器機能評価に基づくスクリーニングからの介入を含めた介護予防事業の試み
アルケア株式会社 宮本 恵理
- O-162 地域在住高齢者における足趾把持力の運動機能との関連—山間部在住高齢者の検討—
群馬パース大学 加藤 仁志
- O-163 慢性痛を持つリハビリテーション従事者における痛みの精神的要素と身体機能, および身体活動量の検討
笛吹中央病院 リハビリテーション科 坂本 祐太
- O-164 保険薬局における健康増進の取り組み～管理栄養士との協働によるウォーキングイベント開催～
薬樹株式会社 経営企画室 吉澤 隆治
- O-165 二次の介護予防事業における住環境評価の必要性
医療法人 石和温泉病院 リハビリテーション科 理学療法室 原田 智史
- O-166 通所リハビリテーション利用中の要介護者の IADL が運動機能の変化に与える影響
湘南鎌倉総合病院 リハビリテーション科 南條 恵悟

座長：相澤 純也 (東京医科歯科大学)

- O-167 **ロコモ 25 からみる自覚的不安感に関する身体的特徴の検討**
松戸市立福祉医療センター 東松戸病院 北原 俊
- O-168 **大腿骨頸部骨折の転退院時早期杖歩行自立に関わる予測因子について**
赤心堂病院 リハビリテーション科 山賀 恭輔
- O-169 **低頻度の全身振動トレーニングが運動器不安定症の患者に及ぼす影響**
医療法人社団祐昇会 長田整形外科 リハビリテーション科 長嶋 遼
- O-170 **中高齢者における反復性肩関節脱臼に腱板断裂を合併した症例の鏡視下修復術後の関節可動域推移**
船橋整形外科市川クリニック 佐藤 元勇
- O-171 **FBS45 点未満における歩行時杖使用の有用性の検討**
医療法人財団 健貢会 総合東京病院 リハビリテーション科 松田 直也
- O-172 **健常者における立位スタンス幅と歩行開始パターンの関係**
昭和大学藤が丘病院 リハビリテーション室/
昭和大学保健医療学部 理学療法学科 湖東 聡

座長：白田 滋 (群馬大学大学院)

- O-173 **意識的に身体動揺を小さくすることで重心制御法は変わるのか?**
医療法人安生会 上尾二ツ宮クリニック/
埼玉県立大学大学院リハビリテーション学専修博士前期課程 宮澤 拓
- O-174 **運動スキルを言語化することの運動学習への効果**
了徳寺大学 健康科学部 理学療法学科 川崎 翼
- O-175 **健常者における前額面上の主観的垂直認知の特性分析—加齢による差異—**
埼玉医科大学国際医療センター リハビリテーションセンター 深田 和浩
- O-176 **非利き手による箸動作の練習が運動イメージ時の一次運動野興奮性に与える影響**
桜ヶ丘中央病院 岡原隆之介
- O-177 **立位姿勢時の外乱負荷刺激に対する腓腹筋と前脛骨筋の反応順序性に関する研究**
医療法人社団 安生会 上尾二ツ宮クリニック 佐々木雄太
- O-178 **安静立位時の暗算課題が先行随伴性姿勢調節と右上肢挙上の反応課題に及ぼす影響**
国立大学法人 筑波技術大学 大学院 技術科学研究科
保健科学専攻 理学療法学コース 坂本 禎典

座長：工藤 誠 (医療法人社団誠馨会 千葉中央メディカルセンター)

- O-179 脛骨近位端骨折に対して超音波療法・関節鏡視下授動術を用いて ROM 改善を目指した症例
医療法人 藤仁会 藤村病院 リハビリテーション部 小澤 琢也
- O-180 歩行時痛の治療に難渋した右脛骨腓骨遠位端開放骨折・脛骨天蓋骨折・踵骨骨折を呈した一症例
牛久愛和総合病院 井波 博
- O-181 踵骨骨折術後のリハビリテーション～荷重開始に伴う変形性足関節症の発症防止を目指した治療アプローチ～
医療法人 横浜平成会 平成横浜病院 リハビリテーション科 加藤 悟
- O-182 大腿骨近位部骨折術後に歩行補助具が変化した症例と、歩行補助具が変化しなかった症例の足踏みの指標
富士見高原医療福祉センター 富士見高原病院 飯田 祥吾
- O-183 右下腿骨骨折による創外固定術施行後、荷重不良を呈した症例へのバーチャルリアリティ環境を用いた効果
医療法人 愛正会 やすらぎの丘温泉病院 リハビリテーション科 手塚 拓也
- O-184 腰椎圧迫骨折後の疼痛により生活機能が低下した在宅高齢者に対する訪問リハビリテーションの介入効果の検討
医療法人笹本会おおくに訪問リハビリテーション 澤田 圭祐

- P-066 大腿骨近位部骨折患者における歩行予後予測について～術後一週での動作能力に着目して～
東京慈恵会医科大学大学附属第三病院 リハビリテーション科 三小田健洋
- P-067 プラスチック短下肢装具イーゼーストライドの特徴と適応
川崎市障害者更生相談所南部地域支援室 石原 清
- P-068 長岡市野球肘検診の取り組みと今後の課題
新潟リハビリテーション病院 リハビリテーション部 大野 健太
- P-069 大腿骨頸部骨折患者における受傷前と退院時の変化と認知症の影響について
地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院 朝山 信司
- P-070 膝前面痛を呈する人工膝関節全置換術後患者における術前後の身体・精神機能の経時的変化
苑田会人工関節センター病院 リハビリテーション科 田中 友也
- P-071 個人因子の異なる片側下肢切断者の 10m 歩行時間の比較
国立障害者リハビリテーションセンター病院 田中 亮造
- P-072 脊椎圧迫骨折患者における理学療法開始時期の違いが在院日数と理学療法経過に及ぼす影響
新座志木中央総合病院 リハビリテーション科 穂谷 優二
- P-073 腰椎術後理学療法で行うノルディックウォーキングの意義と有効性
片山整形外科記念病院 理学療法科 櫻井 理高
- P-074 スペイン語圏諸国における慢性腰痛患者に対する自主練習メニューの有用性
新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健学専攻 理学療法学分野/
新潟医療生活協同組合 木戸病院 リハビリテーション科 渡邊 司
- P-075 大腿骨近位部骨折術後症例に対する患側下肢荷重練習の即時効果に関する検討
新潟中央病院 リハビリテーション部 松下紗和子
- P-076 頸椎術後理学療法で行うノルディックウォーキングの有効性について
片山記念病院 理学療法科 重綱 玲南
- P-077 パーキンソン病患者における繰り返し動作遂行時間の重症度別変化について
東京慈恵会医科大学大学附属第三病院 リハビリテーション科 来住野健二
- P-078 S1 神経根障害による筋力低下が歩行に与える影響について
新潟中央病院 リハビリテーション部 野嶋 素子
- P-079 急性期脳卒中患者における退院先の関連因子の検討
横浜総合病院 リハビリテーション科 板摺 美歩
- P-080 脳卒中例に対する上肢ミラーセラピー-外来指導の一考察-ミラーセラピー日記を導入して-
埼玉県立循環器・呼吸器病センター リハビリテーション部 鈴木 昭広

- P-081 脳血管障害者の生活期移行に向けた理学療法効果に関する一考
横浜市総合リハビリテーションセンター 医療部 機能訓練課 田平 侑佳
- P-082 慢性閉塞性肺疾患に対し作業療法との協業が有効であった急性期呼吸リハビリテーションの一症例
社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院 リハビリテーション室 石井 大輔
- P-083 当院における脳卒中急性期からの転帰に関する動向調査～早期退院・早期転院を目指して～
湘南東部総合病院 リハビリテーション科 長渡 英和
- P-084 心拍動下冠動脈バイパス術における肋間小開胸法の特徴について～正中開胸 VS 肋間小開胸～
公仁会 大和成和病院 リハビリテーション科 岸本 敬史
- P-085 廃用症候群患者の BI と転帰の関係～第3報～入院前自立生活レベルと転帰から
東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 平山 次彦
- P-086 随意運動介助型電気刺激装置を使用した舌骨上筋群への治療的電気刺激が主観的不快感に及ぼす影響
社会医療法人社団 森山医会 森山リハビリテーション病院 佐藤 祐
- P-087 クリニカルリーズニング（臨床推論）の基礎としての論理的思考教育の試み
国立療養所栗生楽泉園 リハビリテーション科 中島 誠
- P-088 「AIDET」は本邦で通用するか？～JCI 認証病院としての新たな取り組み～
湘南鎌倉総合病院 リハビリテーション科 根本 敬
- P-089 子供を対象とした医療職場体験企画の参加報告
横浜市長市民病院 リハビリテーション部 前野 里恵
- P-090 地域リハ活動支援事業における県行政と協働した千葉県理学療法士会の取り組み
千葉県立保健医療大学/一般社団法人 千葉県理学療法士会 竹内 弥彦
- P-091 当院リハビリテーション科内におけるメンタルヘルスケアの取り組み
株式会社 日立製作所 ひたちなか総合病院 平林 佳織

ポスター発表5（症例報告）

ポスター会場（3F 301+302）

- P-092 膝蓋骨骨折術後の膝伸展筋力低下が長期に遷延した症例に対する筋電図学的検討
相模原中央病院 リハビリテーション科/北里大学大学院 医療系研究科 柴田 和彦
- P-093 3次元動作解析によるリバース型人工肩関節置換術後の運動円滑さの変化
埼玉県立大学大学院 保健医療福祉学研究科/
医療法人 親和会 訪問看護ステーション ホウエイ 小林 章
- P-094 レポート課題に失敗を繰り返していた臨床実習生への穴埋めレポートアプローチ
医療法人社団千葉秀心会 東船橋病院 リハビリテーション科 松井 剛
- P-095 完全免荷にて前足部免荷装具採型後、仮合わせ時荷重において不適合が生じた症例
大倉山記念病院 リハビリテーション科 富田 博之

- P-096 希望していた入浴と組み合わせることにより車椅子座位保持時間の改善を認めた一症例
医療法人社団 千葉秀心会 東船橋病院 上村 朋美
- P-097 生活環境と身体機能の変化を機に坐骨部の褥瘡を繰り返した胸髄損傷者への褥瘡予防アプローチ
埼玉県総合リハビリテーションセンター リハビリテーション部 理学療法科 石井 佑穂
- P-098 保険外サービスがもたらすリハビリテーションへの効果一症例報告一
ディチャーム株式会社 メディカル事業部
ゆうき訪問看護リハビリステーション 青柳 法大
- P-099 右膝蓋骨骨折を呈した脳出血後右片麻痺者に対して装具製作を行った経験
さいたま市立病院 リハビリテーション科 渡邊 雅恵
- P-100 サービス間連携から在宅復帰を果たし QOL が向上した一方で、予防的な介入が困難となった一症例
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院 田口 雅大
- ポスター発表 6 (フレッシュマン) ポスター会場 (3F 301+302)
- P-101 側臥位での股関節外転運動時の中臀筋の関与率について
株式会社ルネサンス 小嶋 賢人
- P-102 フォワードランジ動作時の膝関節外反に影響を与える因子の検討ー静的アライメントに着目してー
西湘病院 リハビリテーション科 小早川和也
- P-103 報酬系領域の活動から疼痛軽減を図った症例
巨樹の会 宇都宮リハビリテーション病院 佐藤 充
- P-104 通所リハビリ利用者における栄養状態と筋力・筋量の関係
ふれあい鎌倉ホスピタル リハビリテーション科 小村 直之
- P-105 家族の介護不安に対する家族指導を中心とした介入により、在宅復帰を果たした症例
医療法人 愛正会 やすらぎの丘温泉病院 リハビリテーション科 川波 真也
- P-106 大動脈解離術後に脊髄梗塞と脳梗塞を合併した患者に対し地域包括ケア病棟により自宅退院に至った一例
聖隷横浜病院 リハビリテーション室 小峰 侑真
- P-107 右人工膝関節全置換術 (以下 TKA) 後、在宅復帰への不安感が強く、リハビリ病院へ転院した症例
荻窪病院 リハビリテーション科 岡本慎太郎
- P-108 半側空間無視を呈し座位保持困難な症例~唯一の訴えであるトイレでの座位保持を目指して~
鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院 島田 真衣

- P-109 脳卒中片麻痺患者への足底挿板療法～機能向上を目的に立脚前期の骨盤を後方停滞させた症例～
IMS グループ 医療法人社団 明芳会 横浜新都市脳神経外科病院
リハビリテーションセンター 渡邊 郁海
- P-110 バランスの評価項目に Balance Evaluation Systems Test (BESTest) を用いた、延髄外側・小脳梗塞を呈した症例
医療法人社団緑野会 みどり野リハビリテーション病院 大崎 幸子
- P-111 麻痺側上下肢への認識の変化がトイレ動作能力向上に至った症例
長野寿光会 上山田病院 リハビリテーション科 入倉伸太郎
- P-112 脳卒中片麻痺者に対する足関節底屈筋群の筋活動を促す介入が歩行能力に及ぼす影響
社会医療法人社団 森山医会 森山リハビリテーション病院
リハビリテーション科 染谷めぐみ
- P-113 Pusher 症状及び認知症を呈した重度片麻痺患者に対する座位保持練習～段階的の難易度調整を用いて～
医療法人社団千葉秀心会 東船橋病院 一本柳千春
- P-114 歩行支援ロボットを用いた歩行訓練が歩容改善に繋がった一症例—歩行速度改善および効果持続に着目して—
医療法人新都市医療研究会「君津」会 南大和クリニック
通所リハビリテーション 山口 貴弘
- P-115 片麻痺患者における歩行中の麻痺側腕振りによる Asymmetry Ratio の変化
IMS グループ イムス板橋リハビリテーション病院 リハビリテーション科 荻村 公尊
- P-116 脳梗塞により左半側空間無視を呈し、ADL の介助量軽減を目指した一症例—トップダウンアプローチを中心に—
三星会 大倉山記念病院 リハビリテーション科 鈴木 公二
- P-117 RAPS を用いた歩行訓練により歩行時の疼痛が消失し屋外歩行自立に至った症例
聖テレジア会 鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院 池田 智子
- P-118 慢性期脳卒中片麻痺患者に対する HAL ロボットを使用した症例
山梨厚生病院 橘田 俊宏
- P-119 復職に向けて多重課題、職場との連携を行い退院となった一症例
社会福祉法人聖テレジア会 鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院 佐藤 詩葉
- P-120 健康増進活動を通して症状が改善した糖尿病患者の治療経験
熊谷総合病院 リハビリテーション科 羽鳥 航平
- P-121 脳卒中片麻痺患者の非麻痺側上下肢での車いす駆動—座面角度に着目して—
甲州リハビリテーション病院 土屋 紅葉
- P-122 温熱刺激が熱ショックタンパク質産生に与える影響—筋線維タイプの違いによる比較—
南多摩病院 リハビリテーション科 稲生絵利香

- P-123 温熱刺激頻度の違いが熱ショックタンパク質産生およびタンパク質合成に与える影響
台東区立台東病院 医療技術部 星野恵里佳
- P-124 頰椎の姿勢変化が頰椎周囲筋に及ぼす影響～肩甲骨と下顎に着目して～
IMS（イムス）グループ 明理会中央総合病院 リハビリテーション科 小出 慧
- P-125 周辺視野が跨ぎ動作に及ぼす影響
ふれあい平塚ホスピタル リハビリテーション科 原 ひとみ
- P-126 末梢神経損傷モデルラットに対する運動介入が神経可塑性に与える影響
白岡整形外科 中本 幸太
- P-127 頰髄損傷患者に歩行支援ロボットを導入し連続歩行距離が延長した症例を経験して
医療法人新都市医療研究会 君津会 南大和病院 若松 奨
- P-128 筋再生過程における低出力パルス超音波療法の影響—照射時間の違いによる比較—
北里大学東病院 リハビリテーション部 河合 学
- P-129 低出力パルス超音波療法が筋再生過程に及ぼす影響
北里大学東病院 リハビリテーション部 三浦千咲姫
- P-130 結果の知識と自己評価が協応運動課題学習に及ぼす効果
東京労災病院 星川 希洋

基調講演 教育講演 シンポジウム 一般公開講座

第1会場 (5F 503)

基調講演 大会1日目 10月29日(土) 13:30~15:00

理学療法士が取り組むべきこと—地域包括ケア構築に向けて—

講師:川越 雅弘 (国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部)

司会:林 克郎 (横浜リハビリテーション専門学校)

教育講演1 大会1日目 10月29日(土) 10:30~11:30

「患者情報を収集して読み解こう」

脳画像所見にもとづいて症状と予後を推測して理学療法を計画する

講師:手塚 純一 (川崎幸病院 リハビリテーション科)

司会:木村 雅彦 (北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻)

教育講演2 大会1日目 10月29日(土) 16:30~17:30

「患者情報を収集して読み解こう」

呼吸循環障害とその管理状況を把握して理学療法を計画する

講師:木村 雅彦 (北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻)

司会:手塚 純一 (川崎幸病院 リハビリテーション科)

シンポジウム 大会2日目 10月30日(日) 10:20~11:50

理学療法士によるスポーツ現場への関わり方—リオ五輪での活動と2020東京オリパラに向けて—

・スポーツに関わる手立てとスポーツ理学療法の可能性

講師:加藤 知生 (桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツテクノロジー学科)

・競技スポーツの現場におけるPTの役割—オリンピック・パラリンピックの経験から—

講師:小泉 圭介 (東京スポーツレクリエーション専門学校)

・特殊な環境、身体機能を有するアスリートを支える理学療法士の知識と技術

—リオオリンピック、シンクロナイズドスイミング日本代表チームに帯同して—

講師:地神 裕史 (国士舘大学 理工学部 健康医工学系)

司会:加藤 知生 (桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツテクノロジー学科)

一般公開講座 大会2日目 10月30日(日) 15:30~16:30

自分の可能性を求めて—2020年に向けて—

講師:成田真由美 (リオアデジャネイロ・パラリンピック 競泳 日本代表選手)

司会:佐藤 史子 (横浜市総合リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション部
地域支援課)

理学療法士が取り組むべきこと—地域包括ケア構築に向けて—

国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部

川越 雅弘

今後15年間、75歳以上高齢者(後期高齢者)の急増が予想されている。後期高齢者は、医療や介護サービス、見守りなどの生活支援、住まいの確保など、日常生活を安心・安全に送る上での様々な支援を必要とするため、これらサービスや支援が、日常生活圏域の中で包括的・継続的に提供される仕組み、いわゆる地域包括ケアシステムの構築が、現在、重要な政策課題となっている。

地域包括ケアシステムは、1)医療(特に、退院支援、在宅医療)、2)介護、3)生活支援、4)介護予防、5)住まいで構成されるが、これら各領域別に様々な施策が現在展開されている。また、これらサービスや支援が、適切に提供されるための多職種協働の強化、適切に配分されるためのケアマネジメントの機能強化、保険者である市町村の地域マネジメント力の強化に向けた施策も展開されている。

これら施策動向の中で、リハビリテーション(以下、リハ)や理学療法士に関係する主な課題としては、1)退院支援プロセスへの関与の強化(看護部門・退院調整部門との院内連携の強化、在宅関係者との連携強化)、2)リハマネジメントの機能強化と多職種協働の推進(リハ計画の着実な遂行と目標達成力の強化)、3)ケアマネジメントプロセスの機能強化への貢献(地域ケア個別会議での介護支援専門員や事業所スタッフへの適切な助言力の強化)、4)介護予防事業への関与の強化(地域リハビリテーション活動支援事業の推進)、5)地域づくりへの貢献(通える場所作りと運営支援)の5点が挙げられる。

このうち、平成27年度の介護報酬改定で強く打ち出されたのが、「生活期におけるリハマネジメントの機能強化と多職種協働の推進」である。今回の改定は、①リハ職の個別援助計画のマネジメント力(課題解決能力)の向上、②生活課題を解決するためのケア職との協働の推進、③地域の様々な資源との連携強化(普遍的自立を図るための円滑なサービス移行)を目指したものと見えよう。

本講演では、まず、地域包括ケアや多職種協働、マネジメント力の強化が求められる背景について、特に、人口動態の面から解説する。次に、地域包括ケアの概念やその狙い、地域包括ケア構築に向けた主な施策の動向(リハ関連)を解説する。最後に、これら制度改正のもと、理学療法士に期待されている役割と課題について私見を述べる。

略歴

- 1985年 3月 大阪大学工学部応用物理学科卒業
- 1987年 3月 大阪大学大学院工学研究科前期課程応用物理学専攻修了
- 1987年 4月～ 川崎製鉄株式会社
- 1990年 8月～ 帝人株式会社
- 1997年 1月～ 株式会社経営総合研究所
- 1998年 4月～ 日本医師会総合政策研究機構主任研究員
- 2005年 11月～ 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部室長
- 2012年 2月 広島大学大学院保健学研究科博士課程後期保健学専攻修了
- 2014年 4月～ 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部部長(現職)

MEMO

患者情報を収集して読み解こう

講演 1. 脳画像所見にもとづいて症状と予後を推測して理学療法を計画する

[大会 1 日目 10 月 29 日 (土) 10 : 30 ~ 11 : 30]

講師：川崎幸病院リハビリテーション科

手塚 純一

司会：北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

木村 雅彦

講演 2. 呼吸循環障害とその管理状況を把握して理学療法を計画する

[大会 1 日目 10 月 29 日 (土) 16 : 30 ~ 17 : 30]

講師：北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

木村 雅彦

司会：川崎幸病院リハビリテーション科

手塚 純一

理学療法士にとっては治療場面や実際の動作から得られる患者情報の評価も非常に重要ですが、医療者として患者の病態と管理状況を把握するためには、各種の画像情報や基礎疾患となる心血管疾患についての臨床検査成績等の有用な情報を把握する必要があります。しかし、実際の臨床で果たしてそれらの情報をじゅうぶんに収集し解釈して目標設定や治療に有効に利用できているでしょうか。

本学会の教育講演 1 および 2 では、同一の症例についての情報を時系列にそって提示し、脳画像所見や注目すべき病態の管理状況について情報の読み取り方を整理することで、また、治療経過とも対比して、対象患者をより多角的に把握しながら理学療法を進めていくための思考過程を支援したいと考えています。

講演 1. 脳画像所見にもとづいて症状と予後を推測して理学療法を計画する

昨年改定された日本脳卒中学会「脳卒中治療ガイドライン 2015」では、科学的根拠を踏まえて、予後予測をもとにリハビリテーションプログラムを計画することを推奨しています。脳卒中は脳の疾患であるが故に、脳の状態を的確に評価することが重要であり、そのツールのひとつとして脳画像情報は非常に有用です。理学療法士が日常的に行っている神経学的評価と、脳画像をもとにした脳の機能的および予測的評価を組み合わせることで、障害の「現在」と「未来」を知ることができるのです。

講演 1 では大腿骨骨幹部骨折に続発した意識障害と運動麻痺および高次脳機能障害の 1 例を提示し、

- 1) 脳画像ってどうみるの？—脳画像の基本と各スライスの特徴—
- 2) 脳画像と運動麻痺—中心前回の同定と運動線維の通り道—
- 3) 脳画像と高次脳機能障害—責任病巣と症状との関係性—
- 4) 予後予測と理学療法計画—急性期から生活期の予後を予測する—

の順に、基本的な読影の方法から予後予測と治療プログラムの立案の実際に至るまでを解説し、また、実際に急性期のみでなく生活期における予後予測の妥当性についても検証します。これによって明日からの臨床にすぐに脳画像情報を活用して効果的な理学療法を展開できるように思考過程を支援したいと思います。

講演 2. 呼吸循環障害とその管理状況を把握して理学療法を計画する

今日の医療には、急性期管理から在宅療養そして終末期に至るまで、そのことごとくに多職種が連携した集学的かつ連続的な患者評価と多面的な対処が求められています。これは我々理学療法士が持つチーム医療としての思想的基盤にも合致するものです。したがってまさに時代の要求に応えることが理学療法士の務めであり、本質的な目標を達成するために不可欠な行動であり、目の前の患者に対する責任を果たすことに他なりません。加えて、臨床的に患者の呈する病態や症状は多様多彩であり、潜在的な脅威となる基礎疾患（背景疾患）についての十分な情報把握や起座離床に伴う有害事象についての警戒なくして理学療法は立案も実行も果たし得ません。

そこで、講演 2 では、講演 1 で提示した意識障害例の臨床経過にもとづき、今度は内部障害（呼吸、心血管、代謝機能障害）に対する理学療法の側面から

- 1) 予想される病態を把握する—病態に関する知識や情報の収集と整理—
 - 2) 現状を把握して予後を予測する—重症度ならびに治療方針と治療に対する反応（管理状態）の把握—
 - 3) 予測に基づいて理学療法を展開する—治療目標を設定し理学療法を制限する因子は何かを考えて攻める—
- について順に解説し、病態に対する洞察力をふまえたうえで論理的な理学療法を展開できるように思考過程を支援したいと思います。

【提示症例】

年齢：30 歳代

性別：男性

診断名：右大腿骨骨幹部骨折，右脛骨高原骨折（交通外傷）

現病歴：オートバイを運転中に乗用車との衝突事故で受傷し、救急外来に搬送された。



図1. 救急外来搬入時の大腿部3次元CT

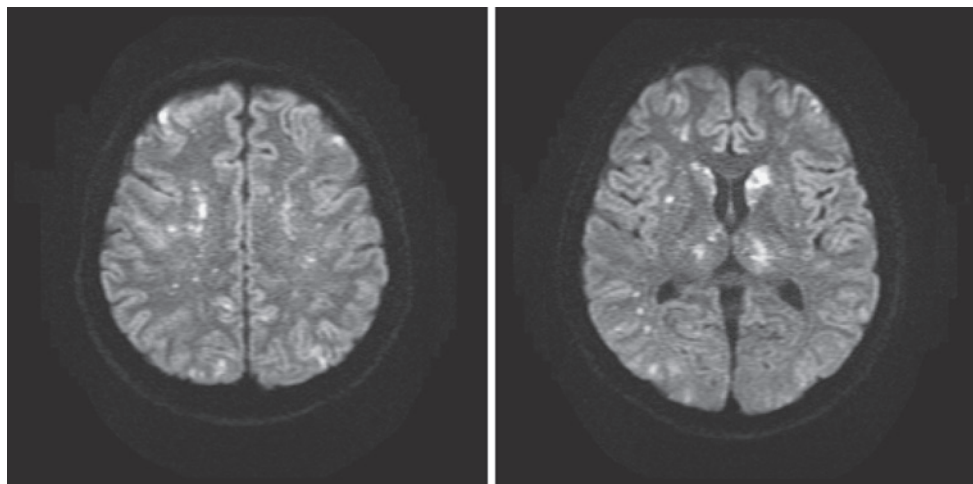


図2. 意識障害発生時の頭部MRI（図2a，図2b）

a | b

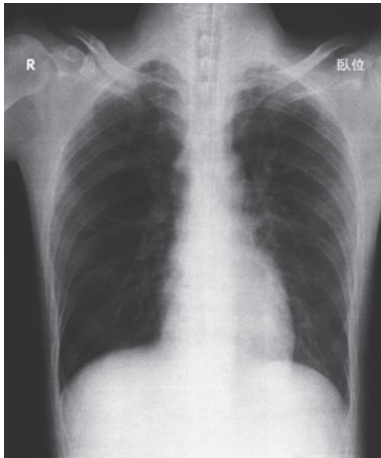


図3. 救急外来搬送時の胸部単純レントゲン写真

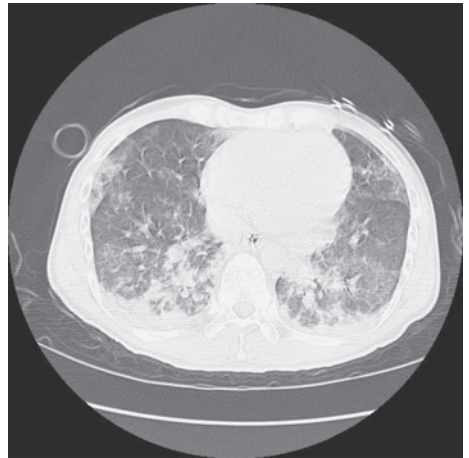


図4. 人工呼吸管理中の胸部CT

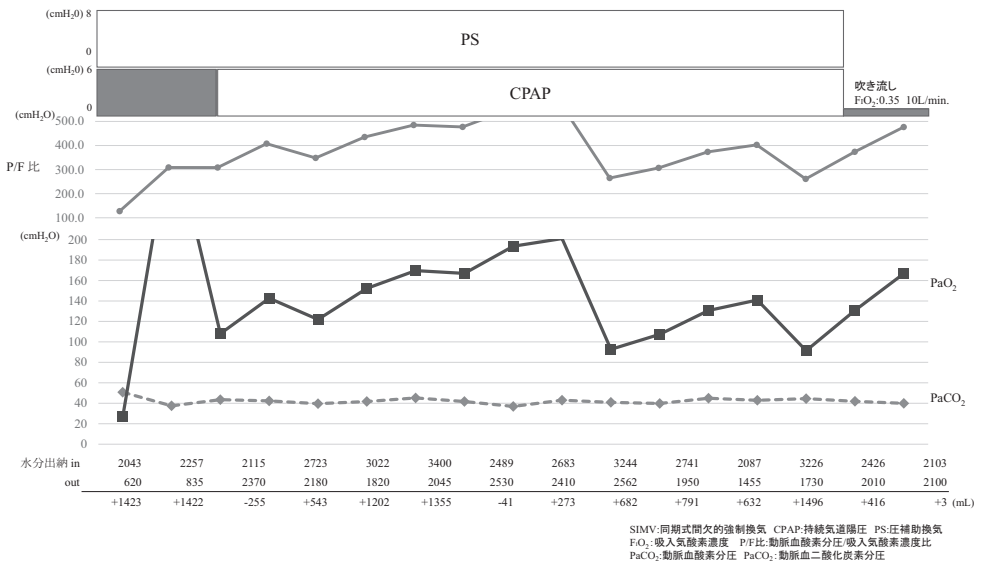


図5. 急性期の呼吸管理状況

略歴

手塚 純一

2002年 3月 国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業
2002年 4月 杏林大学医学部付属病院リハビリテーション室入職
2005年 9月 心臓リハビリテーション指導士取得
2007年 4月 川崎幸病院リハビリテーション科入職
2008年 12月 呼吸療法認定士取得
2009年 6月 川崎幸病院リハビリテーション科科长（現職）
2011年 3月 専門理学療法士（神経）取得
著書 脳卒中理学療法の理論と技術 第二版、メジカルビュー社、2016
極める！脳卒中リハビリテーション必須スキル、株式会社 gene、2016

木村 雅彦

平成元年 社会医学技術学院昼間部理学療法学科 卒業
理学療法士
杏林大学医学部附属病院リハビリテーション室 入職
平成 19年 東京都立保健科学大学大学院 博士課程修了 博士（保健科学）
日本熱傷学会 学術奨励賞 受賞
平成 19年より 現職
平成 27年 台湾粉塵爆発事故に対する日本理学療法士協会国際支援要員として第一次および第二次派遣

日本呼吸理学療法学会 運営幹事（第2回日本呼吸理学療法学会 JSRPT2015 準備委員長）

日本心血管理学療法学会 運営幹事

日本心臓リハビリテーション学会 評議員

日本呼吸療法医学会 評議員 セミナー委員

日本熱傷学会 評議員

杉並息吹きの会 顧問

専門理学療法士（内部障害）

認定理学療法士（呼吸）（循環）

3学会合同呼吸療法認定士

心臓リハビリテーション指導士

呼吸ケア指導士

MEMO

スポーツに関わる手立てとスポーツ理学療法の可能性

桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部 スポーツテクノロジー学科

加藤 知生

今から30余年前、スポーツ現場で活動する医療スタッフ(トレーナー)は、その多くが鍼灸・マッサージ師か柔道整復師であり理学療法士は皆無に等しかった。勿論、スポーツ理学療法という領域も確立しておらず、主たる活動場所が医療機関である理学療法士には、当時の医療保険制度も含めスポーツに携わるには障害が多かった。しかし、1980年関東労災病院に日本で初のスポーツ整形外科が標榜されて以降、多くの医療機関でスポーツ外来が設置され、それに伴い、スポーツ障害・外傷に携わる理学療法士も増え、スポーツ理学療法が体系化されてきた。昨今では、理学療法士の資格を有した者が、メディカルスタッフの一員としてプロスポーツをはじめ、社会人リーグ、各種国際大会等で活躍している。

それでは、スポーツ現場で活動する理学療法士は、いかにしてその役割を担うようになったのであろうか？競技やレベルによって多様な関わり方が想像される。例えば、ケガをした選手が医療機関を受診し、リハ期間を終了した後も、担当した理学療法士がそのまま現場でのサポートを依頼されるケース。自身の医療機関のスポーツドクターが担当しているチームへのサポート依頼、競技団体からの直接的なトレーナー公募などが考えられる。

今回はリオオリンピック、パラリンピックが終了した直後の学会ということもあり、理学療法士が各種競技団体(ナショナルチーム)で活動するためには、どのようにして関わり始めればよいか？また、どのような知識、技術が必要か？など、若い理学療法士の方々が疑問に感じていると思われる事柄についてお話しする。また、シンポジウム全体としては、リオオリンピック、パラリンピックにトレーナーとして参加した理学療法士2名に、チームや選手に如何に関わり、どのような活動をしてきたかを紹介頂く。合せて、4年後に開催される2020東京オリパラに向けての課題や方向性についても言及し、スポーツ理学療法の可能性について皆様とディスカッションを行いたい。

さて、水泳競技の国際大会に帯同するためには、医療資格を有し、公財)日本水泳連盟医事委員会連携組織トレーナー会議会員でなければならない。陸上競技では同じく医事委員会トレーナー部に所属する必要があるが、医療資格は必要ない。何れもそれぞれが行う研修会参加、救急法資格の保有など条件を満たせば入会でき、道筋はハッキリしている。一方、プロチームのあるサッカーや野球では、各チームのトレーナーとなれば、その後の研修制度など充実しているが、チームトレーナーへなるための方策は様々で、公募や関係者の紹介であったりする。バドミントンでは協会のトレーナー部会員である必要があるが、部会員になるためには医療資格(鍼灸・マッサージ資格がベスト)を保有し、かつ、日本体育協会公認アスレティックトレーナー資格を有していなくてはならない。など、シンポジウムにて詳述させて頂く。

略歴

<学歴>

日本体育大学体育学部健康学科卒業

社会医学技術学院卒業

日本柔道整復師専門学校卒業

<職歴>

東京都立台東病院、日立横浜病院 勤務を経て

現職、桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部

スポーツテクノロジー学科 教授

スポーツサポートセンター センター長

<免許&資格>

理学療法士、柔道整復師、中・高体育教諭

日本体育協会公認アスレティックトレーナー

JATI-ATI

<水泳に関わる組織&役職>

日本水泳連盟 医事委員会副委員長

日本水泳トレーナー会議 代表

<トレーナー活動>

シドニー・アテネ五輪（競泳）、北京・ロンドン五輪（シンクロ）ほか

世界選手権、アジア大会等に帯同

MEMO

競技スポーツの現場における PT の役割—オリンピック・パラリンピックの経験から—

東京スポーツレクリエーション専門学校

小泉 圭介

2008年北京オリンピック終了後から、日本水泳連盟では競泳日本代表チーム強化策の一環として障害予防への取り組みを継続してきた。以下が具体的な取り組みである。

- ・障害既往調査
- ・メディカルチェック/身体測定
- ・腰椎 MRI 撮像
- ・障害予防プログラム策定/DVD 作成

特に2020年東京オリンピックで主力になるであろう育成世代に向けた教育活動に力を入れてきた結果、ロンドンオリンピックでのメダル獲得数増加、また今回のリオデジャネイロへの過去最大の選手数派遣ならびに中高生代表選手の輩出につながったと考えている。

この成果を踏まえ、リオデジャネイロパラリンピックでは日本代表水泳チームにトレーナーとして参加することとなった。

パラリンピックにおける水泳競技は競泳のみが実施されており、オリンピックと同様に4泳法5種目が採用され、障がいにより計14のクラスに分かれて10日間の日程で行われる。今大会、日本からは肢体不自由9名、視覚障害3名、知的障害7名の計19名が代表選手として参加する（6月末現在）。

トレーナーの業務としては、まず最初に現状把握として、第一次合宿において選手・コーチと（知的障害の選手は保護者とも）個人面談を行い各自の課題をヒアリング、同時に簡単な評価を行う時間を設けた。リオ本番までの約4カ月でこれらの課題を改善するためには陸上トレーニングの充実が不可欠であると考え、関東近郊の選手は週2回NTCにてトレーニングを実施している。それ以外の地域の選手もトレーニング課題を提示し月1回の集合時に確認するという体制で課題の克服に取り組んでいる。

障がい者スポーツの現場では選手層の薄さが課題とされており、各地でタレント発掘事業が行われている。この問題の根底には、障がい者として競技会に参加することに対しての心理的葛藤があると考えられている。しかし、全国の理学療法士が日々の業務において障がいがあってもスポーツを楽しめることを語り、ともにスポーツで競い合う喜びを享受できればこの問題は解決できるのでは…とも考えている。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催が決定されてから、該当する競技の現場に多くの注目が集まっている。特にパラリンピックの現場では、かつてないほどの情報がメディアを通じて発信されており、様々な媒体で選手の姿を観ることが多くなっている。リオから東京への取り組みは、パラリンピックにおけるアスリートのパフォーマンス・活躍を通じて、様々な障壁を撤廃し障がい者スポーツがスポーツとして独立した価値を確立できるチャンスととらえている。しかし、最も重要なのは東京2020以降日本にスポーツ文化が定着しているか否かであろう。その意味では、2020年以降の我々理学療法士の日常の活動が重要な意味を持つと考えられる。

本シンポジウムでは、オリンピック・パラリンピックに同一種目で参加した理学療法士として、この経験と私見をご紹介します。

略歴

学歴

- 1995年3月 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
2000年3月 東京衛生学園専門学校リハビリテーション学科卒業
2010年3月 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了（スポーツ科学修士）

職歴

- 2000年4月～2002年8月 総合川崎臨港病院
2002年9月～2005年3月 多摩リハビリテーション病院
2005年4月～2006年3月 東京衛生学園専門学校リハビリテーション学科
2006年4月～2013年3月 国立スポーツ科学センター
2013年6月～2016年3月 （独）日本スポーツ振興センター
2016年4月～ 東京スポーツレクリエーション専門学校
（株）FLUX CONDITIONING

主な帯同歴

- 2007年 ユニバーシアード バンコク大会日本選手団（本部）
2012年 ロンドンオリンピック日本選手団（水泳）
2014年 仁川アジア大会（競泳）
2016年 リオデジャネイロパラリンピック日本選手団（水泳）

著書

- 体が生まれ変わるローカル筋トレーニング（マキノ出版 共著）
水泳体幹トレーニング（マイナビ社）

MEMO

特殊な環境、身体機能を有するアスリートを支える理学療法士の知識と技術 —リオオリンピック、シンクロナイズドスイミング日本代表チームに帯同して—

国士舘大学 理工学部 健康医工学系

地神 裕史

我々が所属している日本水泳連盟医事委員会連携組織・日本水泳トレーナー会議では、競泳のみならずシンクロナイズドスイミング（以下、シンクロ）や水球、飛び込み、オープンウォーターなど様々な種目のサポートを行っている。当会ではこれらの競技を理学療法士、柔道整復師、鍼灸師、日本体育協会公認アスレティックトレーナーといった様々な資格を有するトレーナーが一堂に会してサポートを行っている。そのため、すべての会員が共通して取得すべき知識や技術と、各種目や取得資格に特化した知識や技術を使い分けながら、複数のトレーナーがチームを形成して選手の状態に合わせて最適なサポートが行えるような体制の整備を目指して活動している。今回、シンクロナイズドスイミング日本代表チームのサポートを継続的に行ってきたのでその活動内容と東京オリンピックに向けての取り組みを紹介する。

シンクロは高い柔軟性を活かした芸術的な動きと、リフトと呼ばれるダイナミックな動きが融合された競技である。日本チームは過去のオリンピックでも多くのメダルを獲得しており、日本のお家芸とも言われている。しかし競技人口は競泳ほど多くないために触れる機会が少ない競技である。そのため、競技に関わって日が浅いトレーナーはシンクロ選手の身体機能特性や特有の動きを理解しにくく、何をどのように準備し、サポートすればいいのか困惑することも少なくない。シンクロ選手は一般的なアスリートよりも高い柔軟性を有しており、その可動範囲全体を自身の筋活動によってコントロールする必要があるが、このような過可動域における関節運動学は、教科書には記載されていない。よって、一般的な可動域の測定や筋力評価では不十分で、競技中の姿勢や動作に即した評価を行う必要がある。一例として、左の股関節を伸展位、右股関節・膝関節は屈曲位にし、体幹を伸展位にした状態で水面に浮いた状態から動き出すノバと呼ばれる規定要素がある。この動作で高得点を得るためには、股関節の柔軟性はもちろんのこと、左の大殿筋（特に下部線維）をしっかり収縮させることで脚がきれいに見えるだけでなく、腰部から骨盤・股関節が安定し、続く脚の入れ替えやツイストを行う際の身体の動揺を軽減することにつながる。しかし正常範囲を逸脱した可動範囲では特定の部位を収縮させる感覚が正常可動域よりもつかみにくく、他の部位との連動（中枢部の固定や反体側との連動）によってはじめて目的とする部位に筋収縮の感覚が得られることも多い。このような正しい連動にはそれぞれの筋が正しいタイミングと強さで収縮できることが重要で、それを阻害してしまう要因として疲労に伴う筋のスパズムや硬結、収縮の機能不全などがあげられる。我々トレーナーは水中という特殊環境で行って欲しい動きを可能な限り陸上で再現し、その際の機能不全の原因を局所のみならず関連する部位の機能を合わせて評価・アプローチしながらコンディショニングに取り組んでいる。

東京オリンピックでは種目数の増加や、サポート体制の拡充により、過去にサポートしたことの無いような種目に触れる機会も増えることが予想される。このようになじみの薄い、もしくは自身が経験したことがない競技をサポートするためにはその種目や選手の特性を正しく理解するところから始めることが重要である。また、その競技の即したオリジナリティあふれる身体機能評価法を常に開発しようと努力する姿勢も重要である。そういった能力は他の職種に比べ理学療法士が優れている点であるため、理学療法士の活動範囲が広がることが予想される。

略歴

地神裕史（ちがみひろふみ）

理学療法士（運動器理学療法・基礎理学療法 専門理学療法士）

博士（医学）：新潟大学医歯学総合研究科修了

日本体育協会公認アスレティックトレーナー

2003年 東京都立保健科学大学卒業

2003年 東京厚生年金病院（現 JCHO 東京新宿メディカルセンター病院）入職

2007年 新潟医療福祉大学 医療技術学部 理学療法学科 助手

2008年 同 助教

2012年 東京工科大学 医療保健学部 理学療法学科 助教

2014年 同 講師

現 国士館大学 理工学部 健康医工学系 准教授

新潟医療福祉大学や国士館大学の水泳部トレーナーとして活動。

2010年～ 日本オリンピック委員会（JOC）水泳競技強化スタッフ（医・科学スタッフ）

2016年 リオデジャネイロオリンピックシンクロナイズドスイミング日本代表トレーナー、その他、競泳やシンクロの国際大会に日本代表トレーナーとして活動。

MEMO

自分の可能性を求めて—2020年に向けて—

リオデジャネイロ・パラリンピック 競泳 日本代表選手
成田真由美

略歴

1970年生まれ。神奈川県川崎市出身。

中学生のとき横断性脊髄炎のため両下肢麻痺となり、以後、車椅子生活を余儀なくされる。

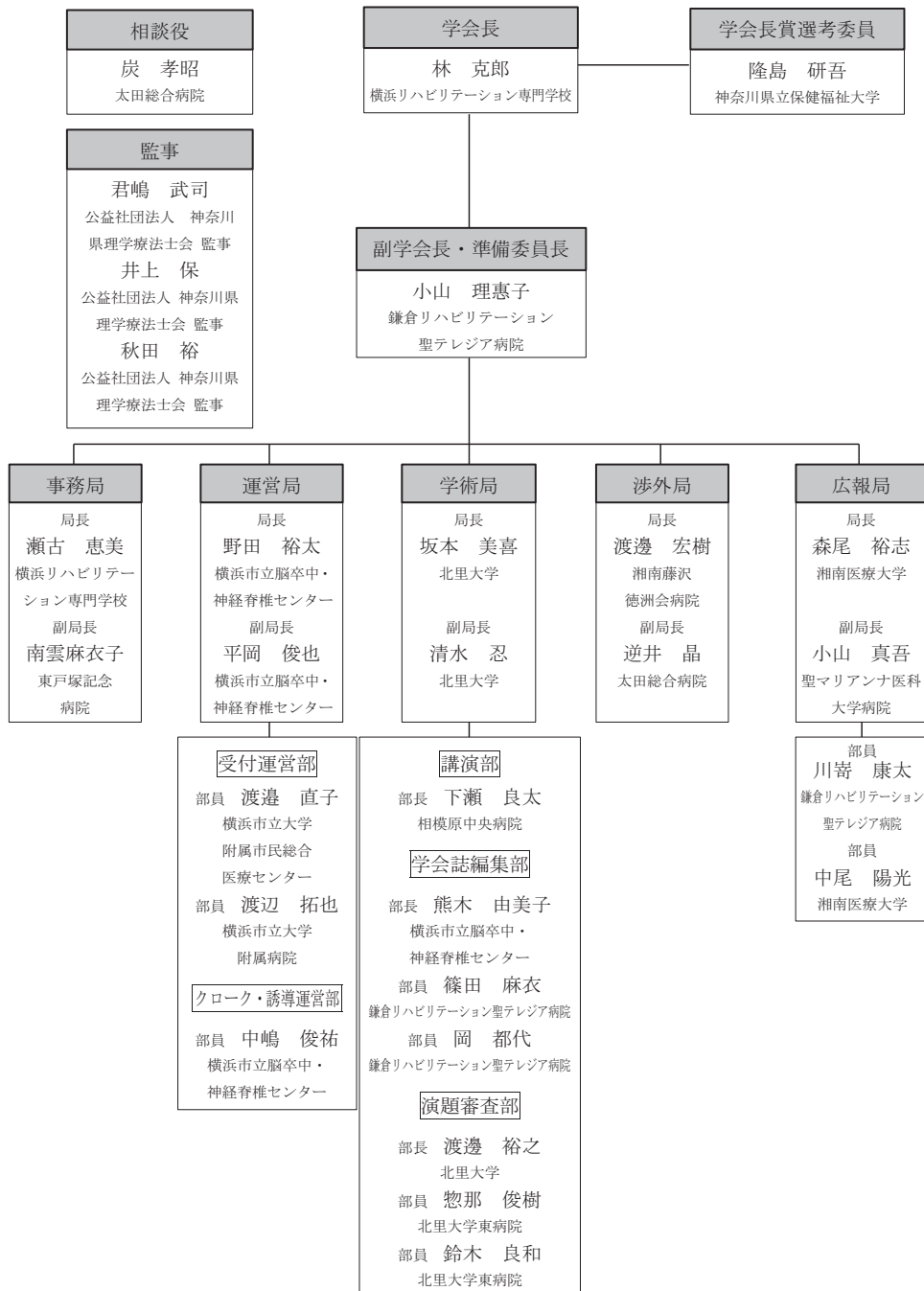
23歳のときに水泳を始め、その後、アトランタ、シドニー、アテネ、北京とパラリンピックに4大会連続出場し、合計20個(金15個、銀3個、銅2個)のメダルを獲得した。金メダルのうち13個は世界新記録付であり、その圧倒的な強さから「水の女王」と呼ばれる。また、シドニーパラリンピックでの活躍により2000年に内閣総理大臣顕彰、アテネパラリンピックでの活躍と講演活動による障害者スポーツ普及への貢献により2005年には国際パラリンピック委員会からパラリンピックスポーツ大賞(最優秀女子選手賞)が贈られた。

2008年の北京パラリンピック後現役を退いていたが、2015年に現役復帰し、ジャパンパラ水泳競技大会において100m自由形と100m平泳ぎで優勝を果たす。リオデジャネイロ・パラリンピック代表選手にも選出された。

2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事であり、2020年夏季オリンピックエンブレムデザイン審査(別途審査委員は8人)のオブザーバーを務めた。

MEMO

学会組織図



【企業展示】

アニマ株式会社
伊藤超短波株式会社
タック株式会社
帝人ファーマ株式会社
株式会社ディケイエイチ
東洋羽毛首都圏販売株式会社
株式会社ソフトサービスライフケア
日東工器株式会社
日本システム株式会社
フォーク株式会社
株式会社プロアシスト
プロト・ワン有限会社
ミナト医科学株式会社

【書籍展示】

株式会社有隣堂

【広告】

株式会社アールアンドシー湘南
グラクソ・スミスクライン株式会社
学校法人後藤学園 東京衛生学園専門学校
社会福祉法人 聖テレジア会 鎌倉リハビリテーション病院
平成医療福祉グループ
目白大学
有限会社ナップ
横浜医療情報専門学校
横浜実践看護専門学校
横浜リハビリテーション専門学校

【協賛】

医療法人愛仁会 太田総合病院

順不同 2016年7月8日現在

第36回 関東甲信越ブロック 理学療法士学会

in 長野

テーマ

「観る 知る 考える」

～安全で効果的な理学療法～



会期 2017年9月23日(土)～24日(日)

会場 ホクト文化ホール(長野市)

学会長 大平 雅美(信州大学部医学部保健学科教授)

- 教育講演:8題(脳卒中分野、運動器分野、呼吸循環器分野、糖尿病分野、地域リハ分野、認知症・介護分野、疼痛の理学療法を予定)
- シンポジウム:1題(安全で効果的な理学療法を考える)
- 一般演題:136題

演題募集期間:2017年3月22日(水)～4月26日(水)

主催:公益社団法人 日本理学療法士協会 関東甲信越ブロック協議会
担当:一般社団法人 長野県理学療法士会